

文京区内における自転車利用等に関する アンケート・ヒアリング調査の結果について (速報版)

1. 調査の概要
2. アンケート調査
3. 事業者・団体ヒアリング調査

1. 調査の概要

1. 調査の概要

- 自転車の利用状況、通行環境・駐輪環境等に対する満足度や課題といった、文京区内における自転車利用の現状や意向を把握することを目的として、以下のアンケート調査及びヒアリング調査を実施する。

<調査の対象と実施方法>

対象		実施方法	
区民	学 生	アンケート調査	高校：学校を通してQRコードが記載された案内状を配布 大学：学校を通してQRコードが記載された案内状を掲示、メールによる通知等 QRコードを用いたウェブ回答にて実施
	18歳以上の区民		郵送回収（住民基本台帳を用いた抽出による） + QRコードを用いたウェブ回答も受け付ける
	区外から文京区内への自転車通勤者		区外から文京区内に自転車で通勤している人を対象に実施
事業者・団体	事業者	ヒアリング調査	事業所：ヒアリング調査にて実施 商業施設：自転車利用が多いと想定される小売店舗に対してヒアリング調査を実施
	障害者		区内の障害者団体にヒアリング調査を実施

2. アンケート調査

2-1. アンケート調査の概要

アンケートの概要

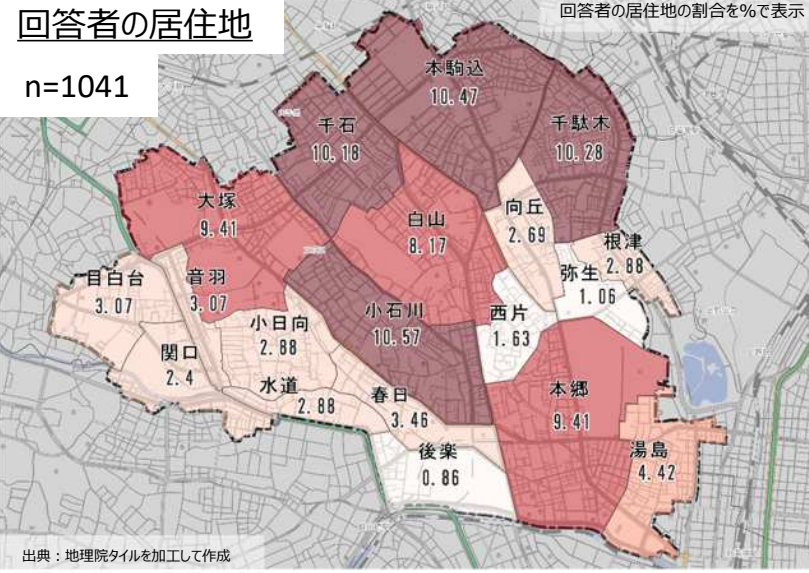
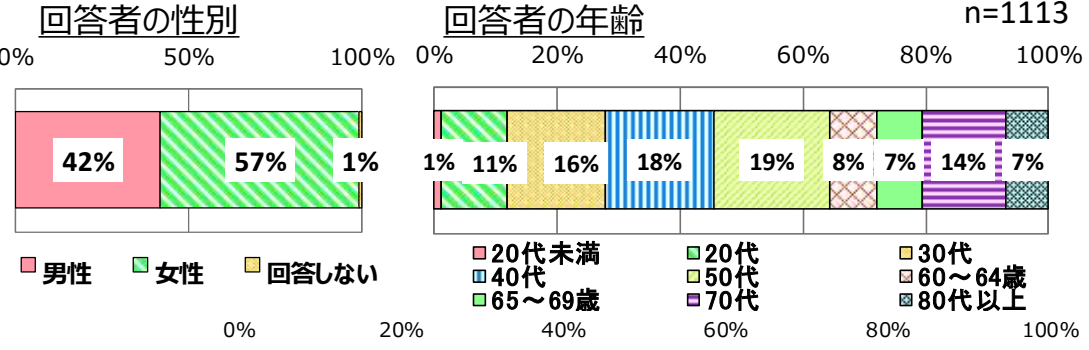
- 自転車の利用実態、通行環境、駐輪環境等に対する満足度や交通安全意識に関する項目について、文京区の現状を把握するため、18歳以上の区民、学生、区外から文京区内に通勤している方の3区分でアンケート調査を実施した。

区分	対象	方法	実施期間	回収目標	配布数	回収状況
区民アンケート	18歳以上の区民	郵送回収（住民基本台帳を用いた抽出による） + QRコードを用いたウェブ回答も受け付ける	6/16 ～7/9	800	3000	紙面：822 WEB：300 計：1122
学生アンケート	高校生・大学生	高校：学校を通してQRコードが記載された調査案内を配布 大学：学校を通してQRコードが記載された調査案内を掲示板に掲示又は配布 + QRコードを用いたウェブ回答にて実施	6/16 ～7/9	900	※WEBアンケートのため未把握	大学生：21 高校生：563 計：584
区外勤務者アンケート	区内在勤者（区外から文京区内に通勤している方）	区外から文京区内に通勤している人を対象にウェブ回答にて実施	6/21 ～7/21	100	※WEBアンケートのため未把握	24

2-2. 区民アンケート

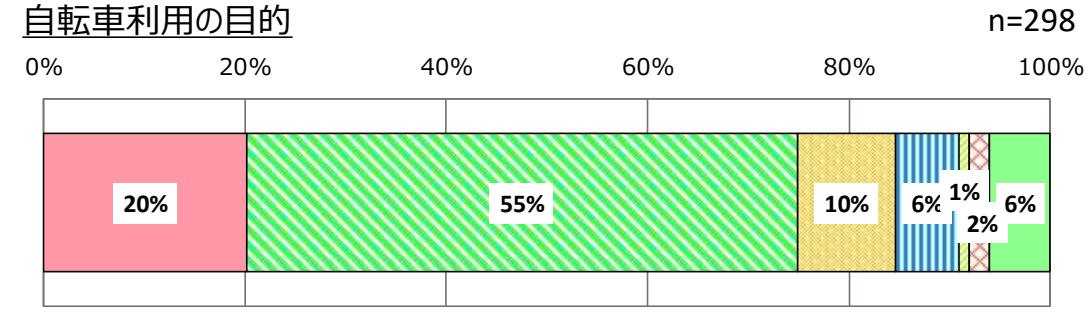
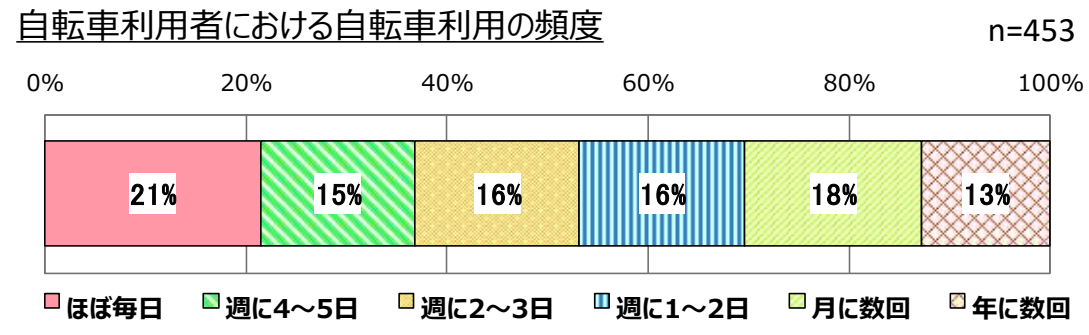
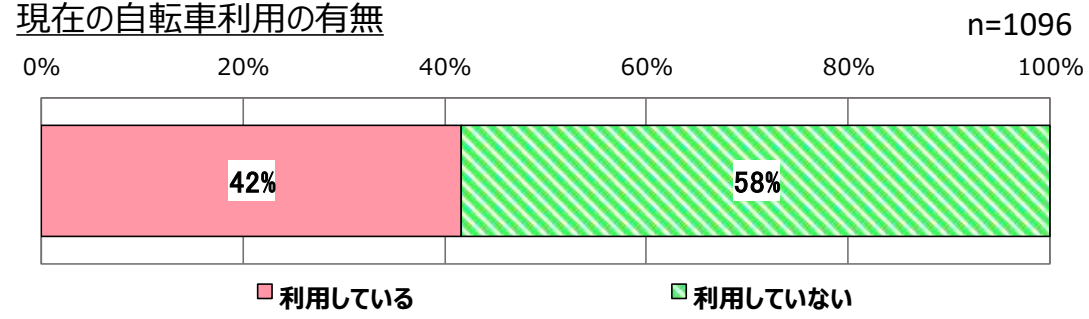
回答者の属性

- 回答者の性別はやや女性が多い傾向である。
- 回答者の年齢は50代が最も多く、次いで40代、30代の順となっている。
- 回答者の居住地は、小石川、本駒込、千駄木、千石において多くなっている。



自転車の利用状況について

- 文京区民の約4割が自転車を利用しており、ほぼ毎日利用している人が最も多く、週に2日以上利用する人が全体の半数以上となっている。
- 自転車を利用する際の目的としては、買い物・食事が最も多く、次いで通勤・通学、子どもの送迎となっている。

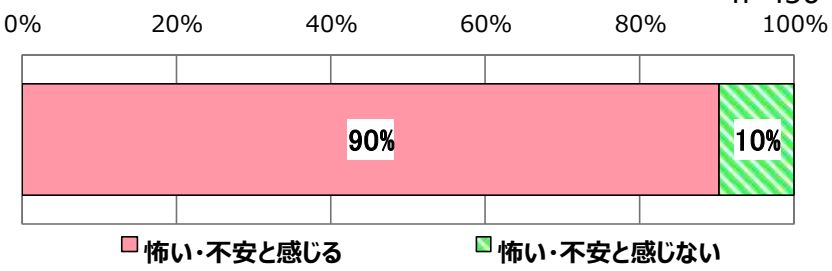


2-2. 区民アンケート

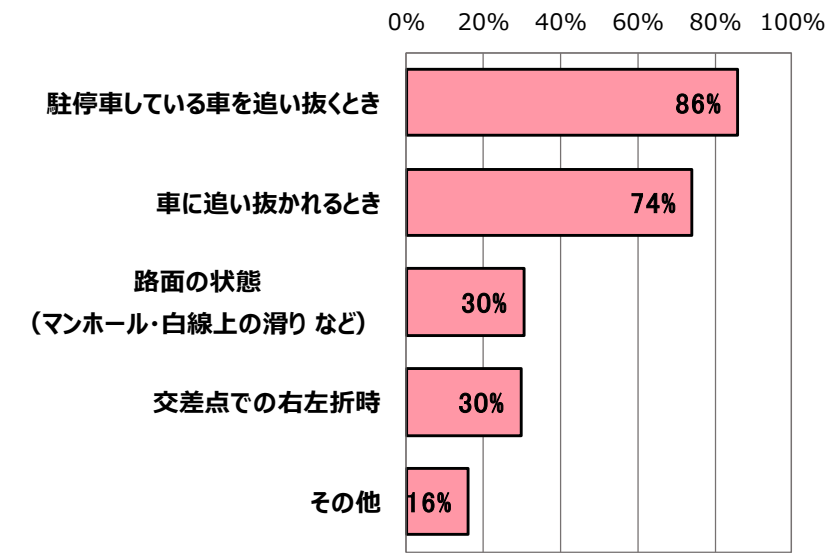
自転車の利用実態について

- 文京区内での車道走行時に、約9割の人が走行を怖い・不安と感じている。
- その理由としては、駐停車している車を追い抜く時が最も多く、次いでクルマに追い抜かれる時となっており自動車との接触等に対して不安と感じている人が多い傾向にある。
- 駐輪場以外の場所に駐輪する人が半数程度存在しており、路上に駐車したことがある人は約8割存在している。
- 路上に駐輪する理由としては、目的地から駐輪場が遠いことや近くの駐輪場を知らないといった、駐輪場の場所に対する理由が多い傾向にある。

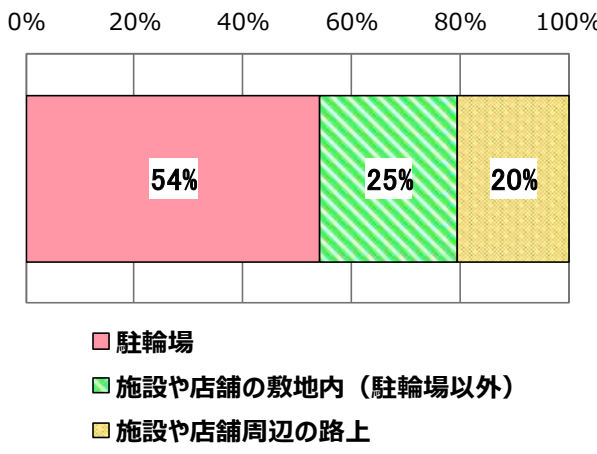
自転車での車道通行に怖い・不安を感じるか n=456



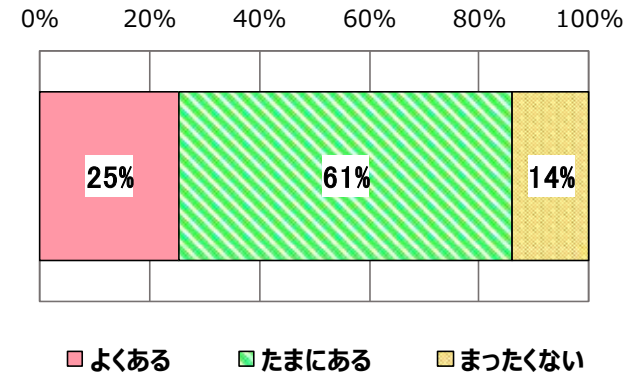
どのようなときに怖い・不安を感じるか n=411



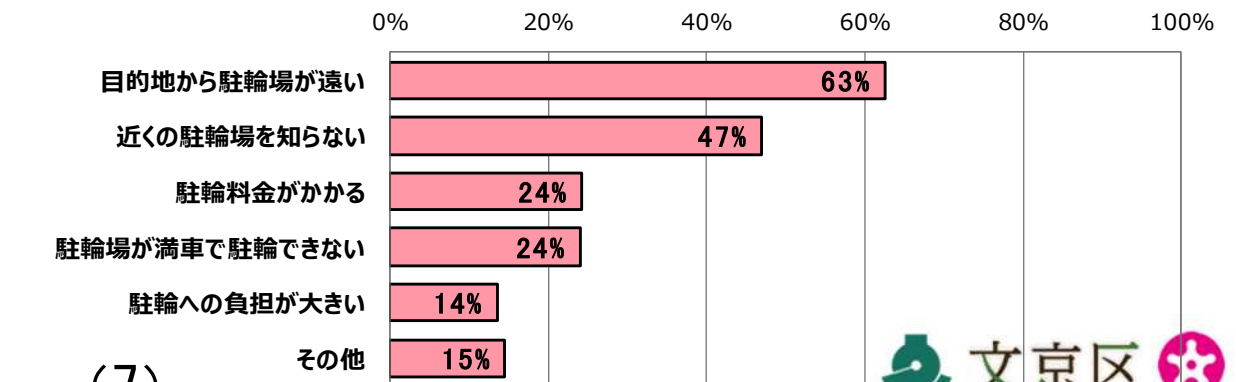
最も多く駐輪する場所 n=452



道路や歩道上に駐輪することがあるか n=456



道路や歩道上に駐輪した理由 n=392

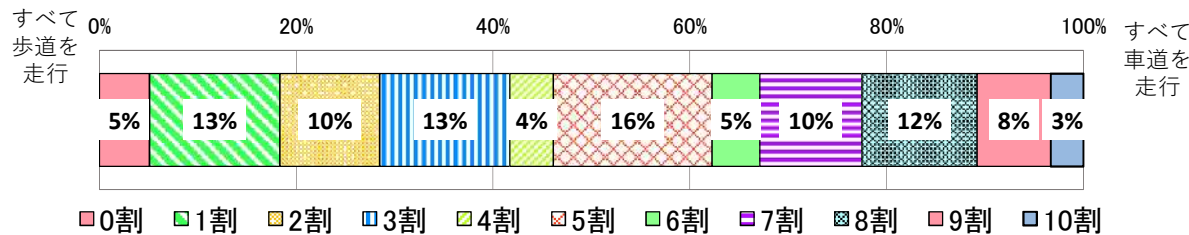


2-2. 区民アンケート

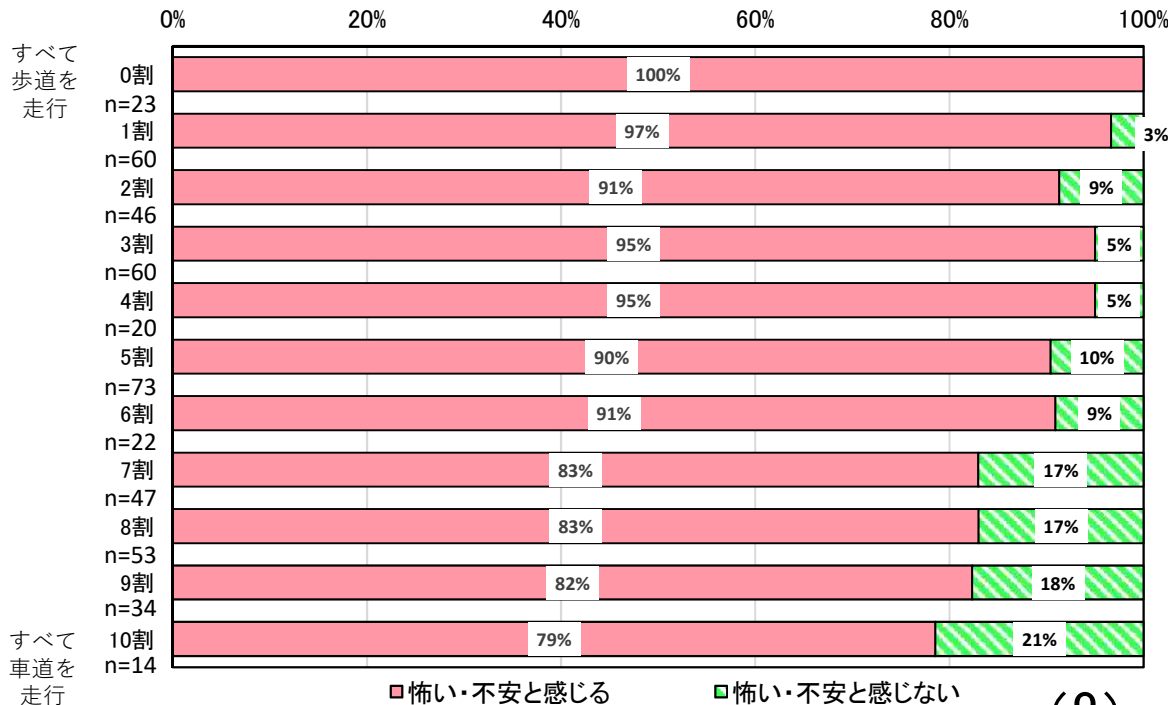
車道走行実態別の車道走行に対する不安について

- 車道を走行している割合が高い程、車道を走行する際に怖い・不安と感じていない。
- 不安を感じる理由としては、車道を走行している割合が高い人ほど、駐停車している車を追い抜く時が高い傾向にある。
- 一方で、車に追い抜かれるときと答えている人の割合は、車道を走行している割合が高い人ほど、低い傾向にある。

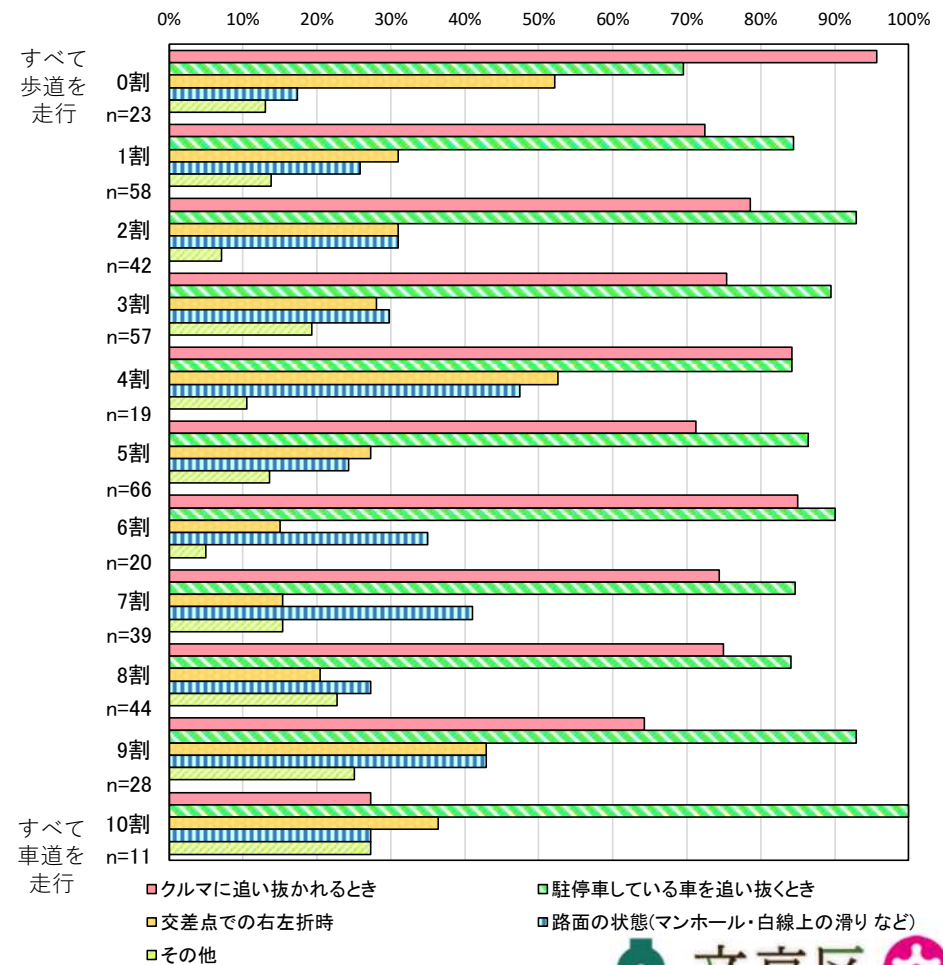
自転車の走行位置（車道の割合） n=452



自転車の走行位置別の自転車での車道通行に怖い・不安とを感じる割合



自転車の走行位置別のどのようなときに怖い・不安とを感じるか

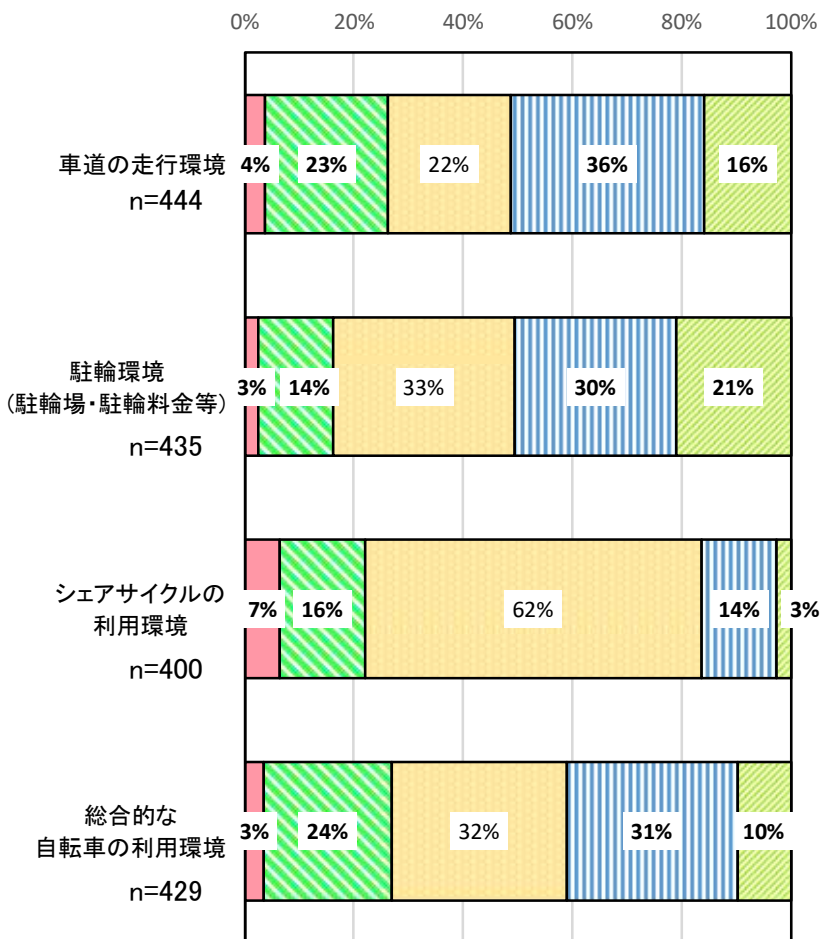


2-2. 区民アンケート

自転車の利用環境に対する意識・意向について

- 文京区内における自転車に対する満足度では、駐輪環境や走行環境について、不満、やや不満と回答している人が満足、やや満足と回答している人を上回っており、総合的な自転車の利用環境においても、不満側の割合が高い傾向にある。
- 走行環境に対する不安要素としては、車道が狭い、路上駐車がが多い、自転車レーン等がないといった路肩走行等に対する要素が多い傾向にある。
- 駐輪環境に対する不満要素としては、駐輪可能な台数が少ない、スペースが狭く駐輪が困難、駐輪場が施設から遠いといった要素が多い傾向にある。

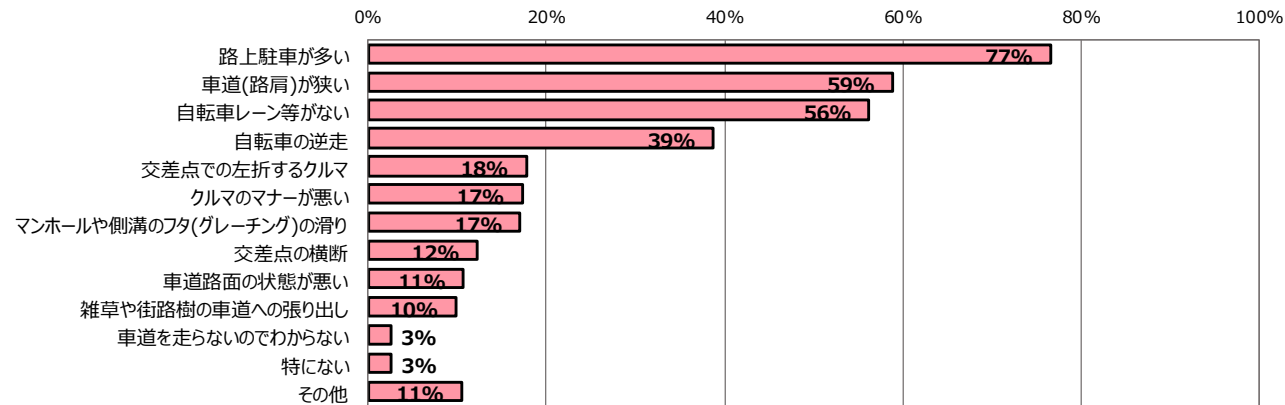
自転車の利用環境に関する満足度



■満足 ■やや満足 □どちらでもない ■やや不満 ■不満

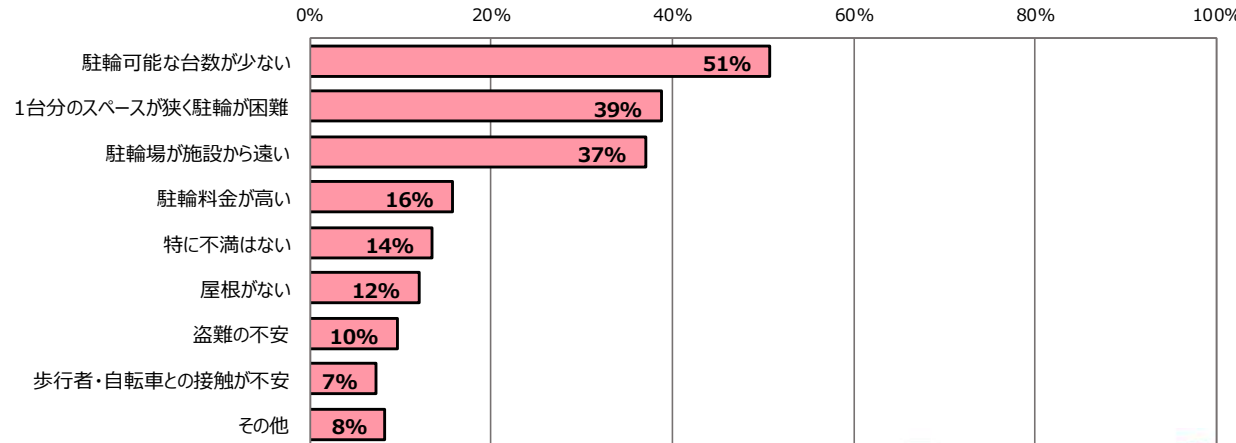
自転車で車道を走行する際に不安・走りにくと感じること

n=457



駐輪場についての不満点

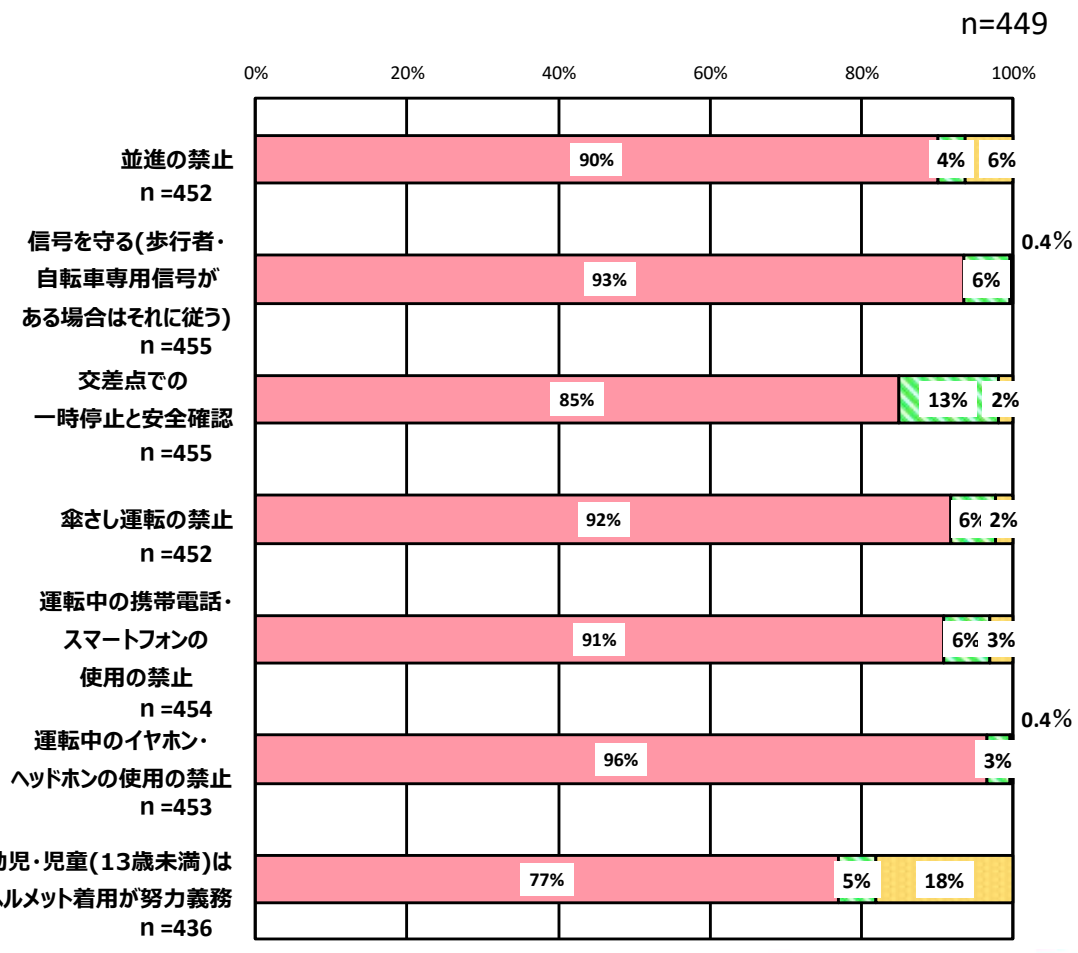
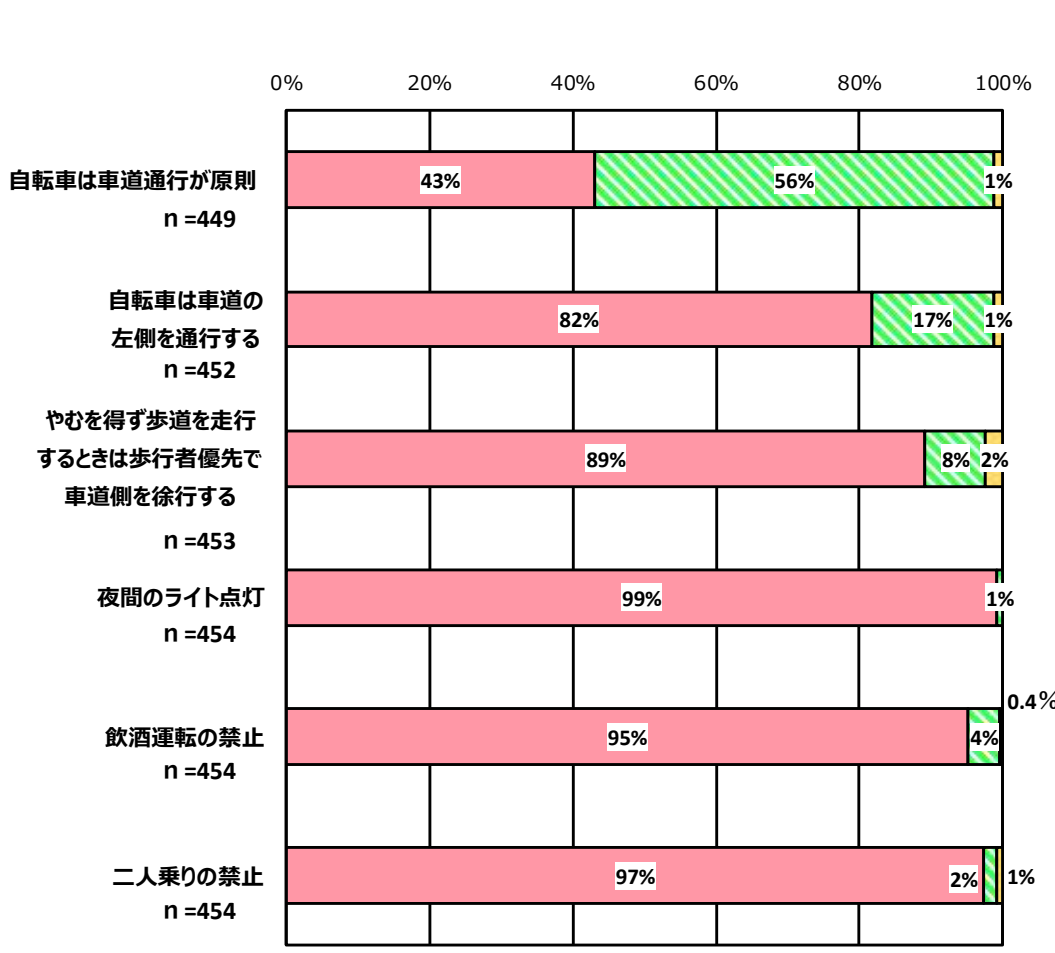
n=457



2-2. 区民アンケート

自転車ルールへの遵守状況について

- 自転車は車道通行が原則となっていることをほぼすべての人が知っているものの、半数以上の人知っているが、まもれていないという状況である。
- また、車道の左側を通行することや、やむを得ず歩道を走行するときは歩行者優先で、車道側を徐行する、といった走行位置に関するルールについても、ほぼすべての人が知っているものの、知っているが、まもれていない人が多い傾向にある。
- ルールの多くが実際にまもれていない人がいるものの、ルール自体は知られている一方で、幼児・児童はヘルメット着用が着用義務については、約2割の人がルール自体を知らない結果となっている。



■ 知っており、まもっている
 ■ 知っているが、まもれていない
 ■ 知らない

■ 知っており、まもっている
 ■ 知っているが、まもれていない
 ■ 知らない

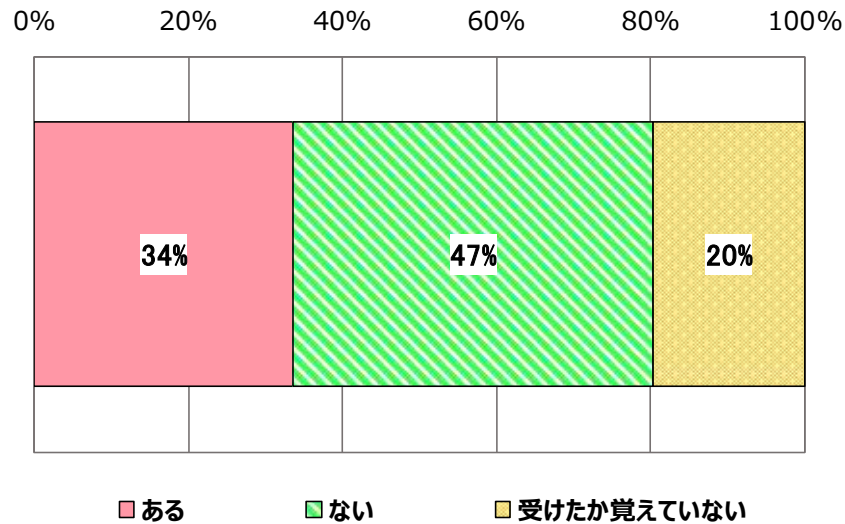
2-2. 区民アンケート

自転車安全教育の受講状況について

- 自転車安全教育を受けたことが約3割となっており、受けたことがない、受けたか覚えていない人が約7割となっている。
- 自転車安全教育の受講時期は小学校以前に約8割の人が受けており、それ以降は徐々に減少している傾向である。

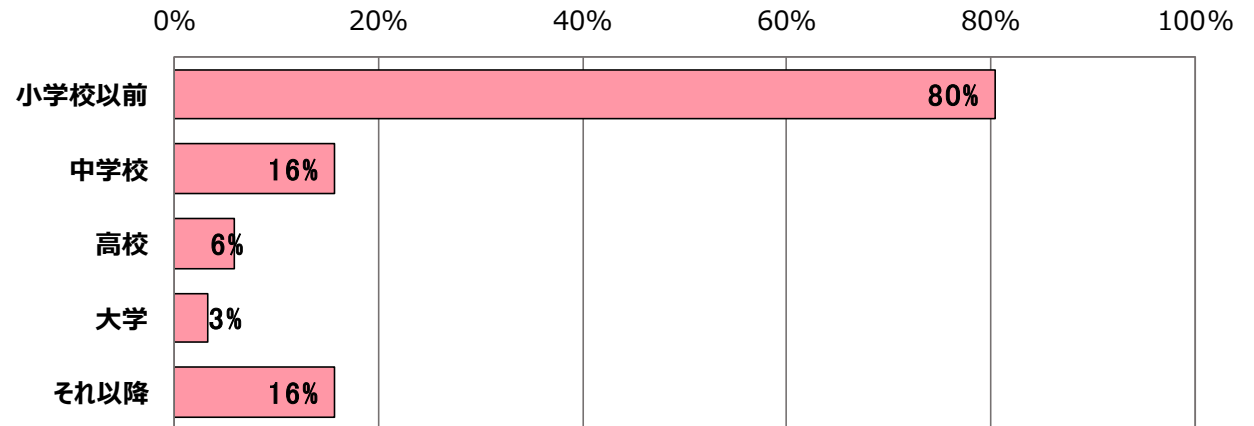
自転車に関する安全教育を受けたことがあるか

n=456



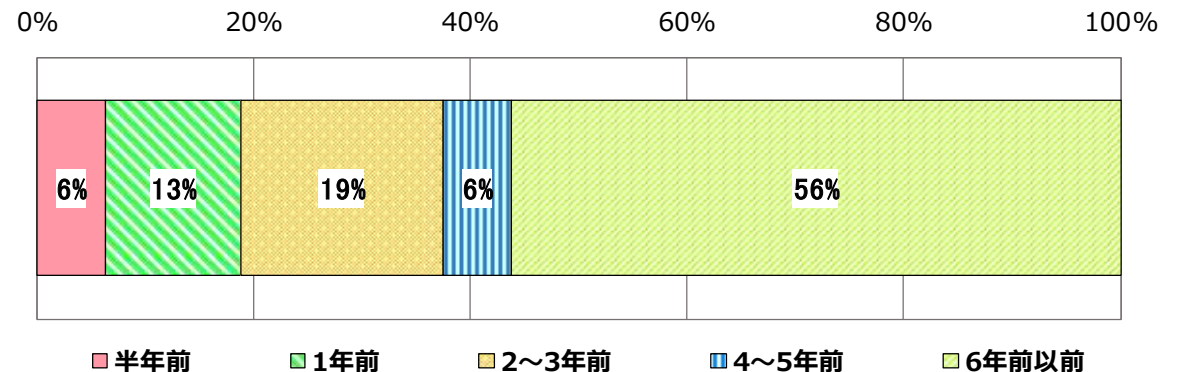
自転車に関する安全教育の受講時期（受講経験のある方）

n=153



自転車に関する安全教育の受講時期（それ以降と答えた方）

n=16



2-2. 区民アンケート

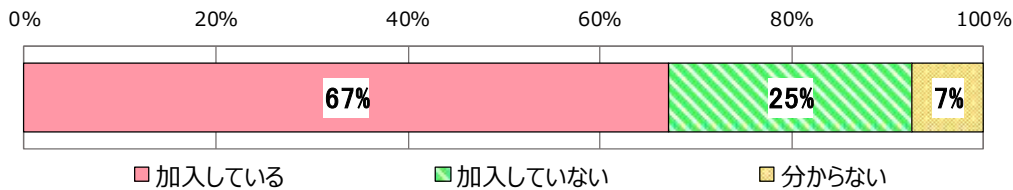
自転車の利用に関する安全意識

- 自転車保険に加入している人は約7割で、加入理由としては、事故の不安や加入義務化が多い傾向となっている。
- また、加入していない理由としては、加入義務の存在を知らないことや加入手続きが面倒、加入の必要性を感じていないことが高い傾向となっている。

- ヘルメットを持っている人は約1割となっており、そのうち着用している人は4%程度しか存在していない状況である。
- 定期的な自転車の整備点検を行っている人は、半数以下となっており、店舗で行っている人の方が若干多い傾向である。

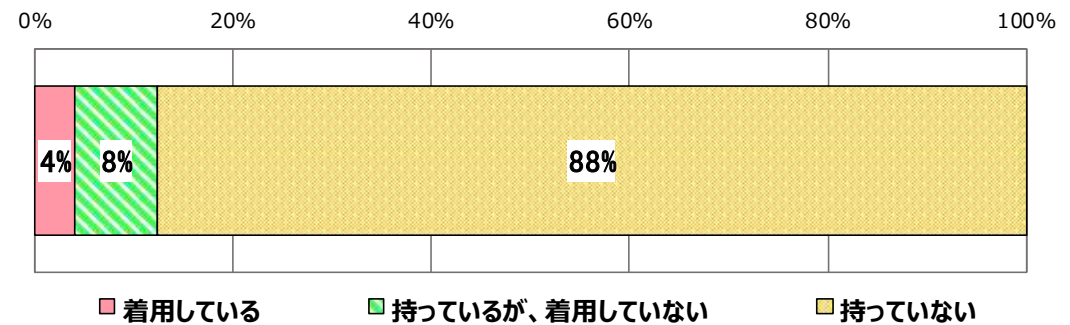
自転車保険の加入状況

n=454



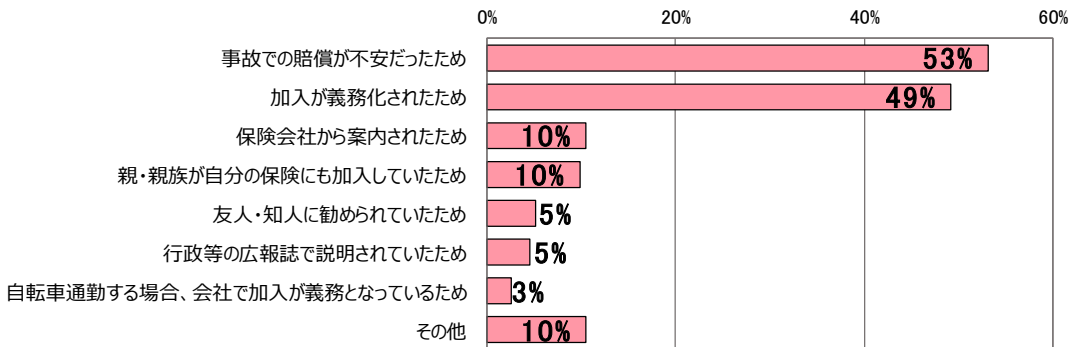
自転車を利用する際にヘルメットを着用しているか

n=437



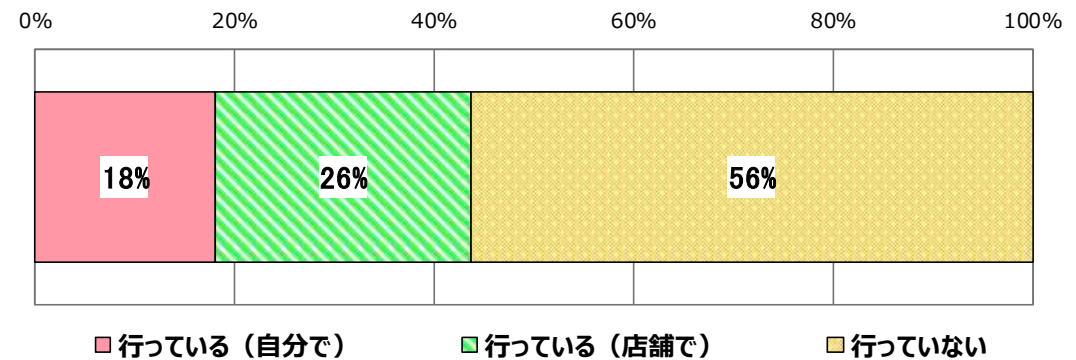
自転車保険に加入した理由

n=305



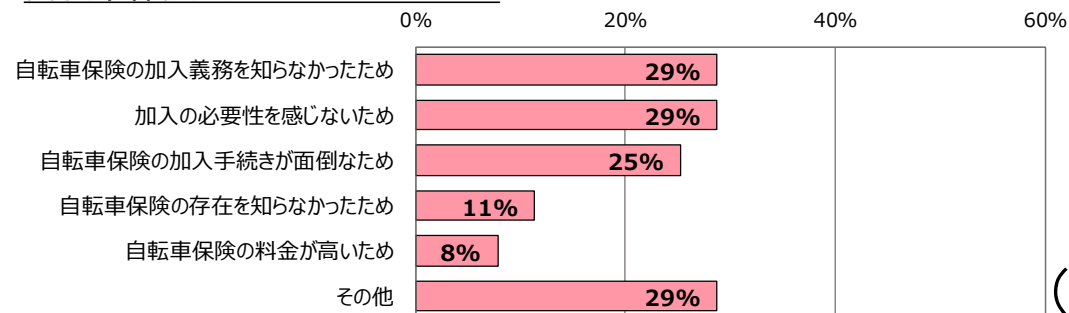
自転車を定期的に点検・整備しているか

n=433



自転車保険に加入していない理由

n=115



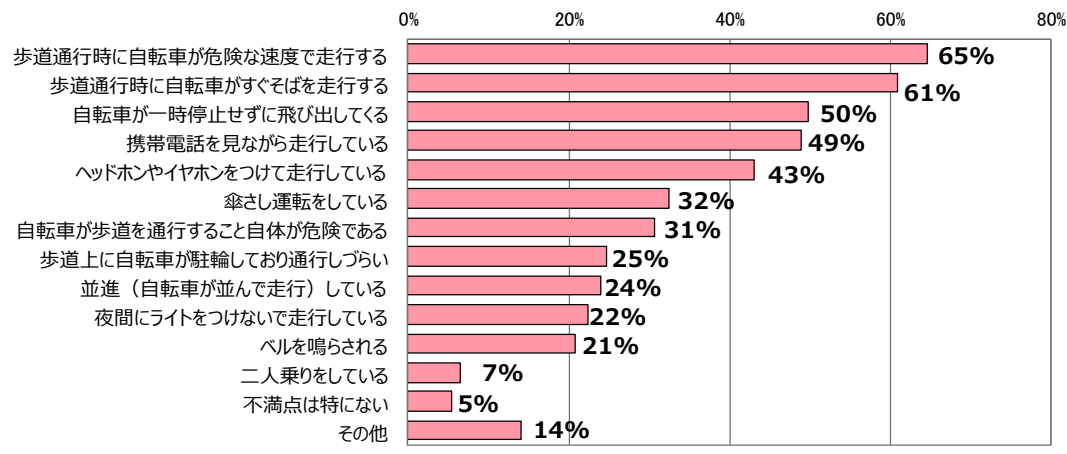
2-2. 区民アンケート

自転車に対する意見

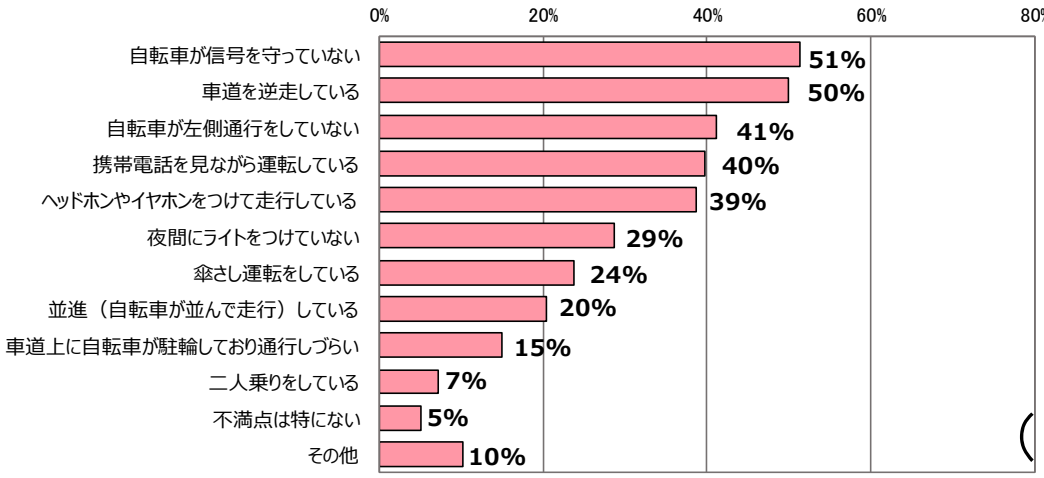
- 歩行者視点の自転車への不満点としては、歩道通行時の速度が速いことや接触に対する不満が多く、次いで自転車の一時停止違反やヘッドホンやイヤホン、スマホの利用が高い傾向である。
- ドライバー視点の自転車への不満点としては、信号無視や逆走、左側通行が出来ていないことに対する不満が多く、また、歩行者と同様にヘッドホンやイヤホン、スマホの利用が高い傾向となっている。

- 自転車利用環境全体への要望としては、目的地周辺やバス停、駅前などへの駐車スペースの設置が高い傾向となっており、次いで、通行空間の整備となっている。
- また、自転車利用者のルール・マナーの向上も比較的高い傾向である。

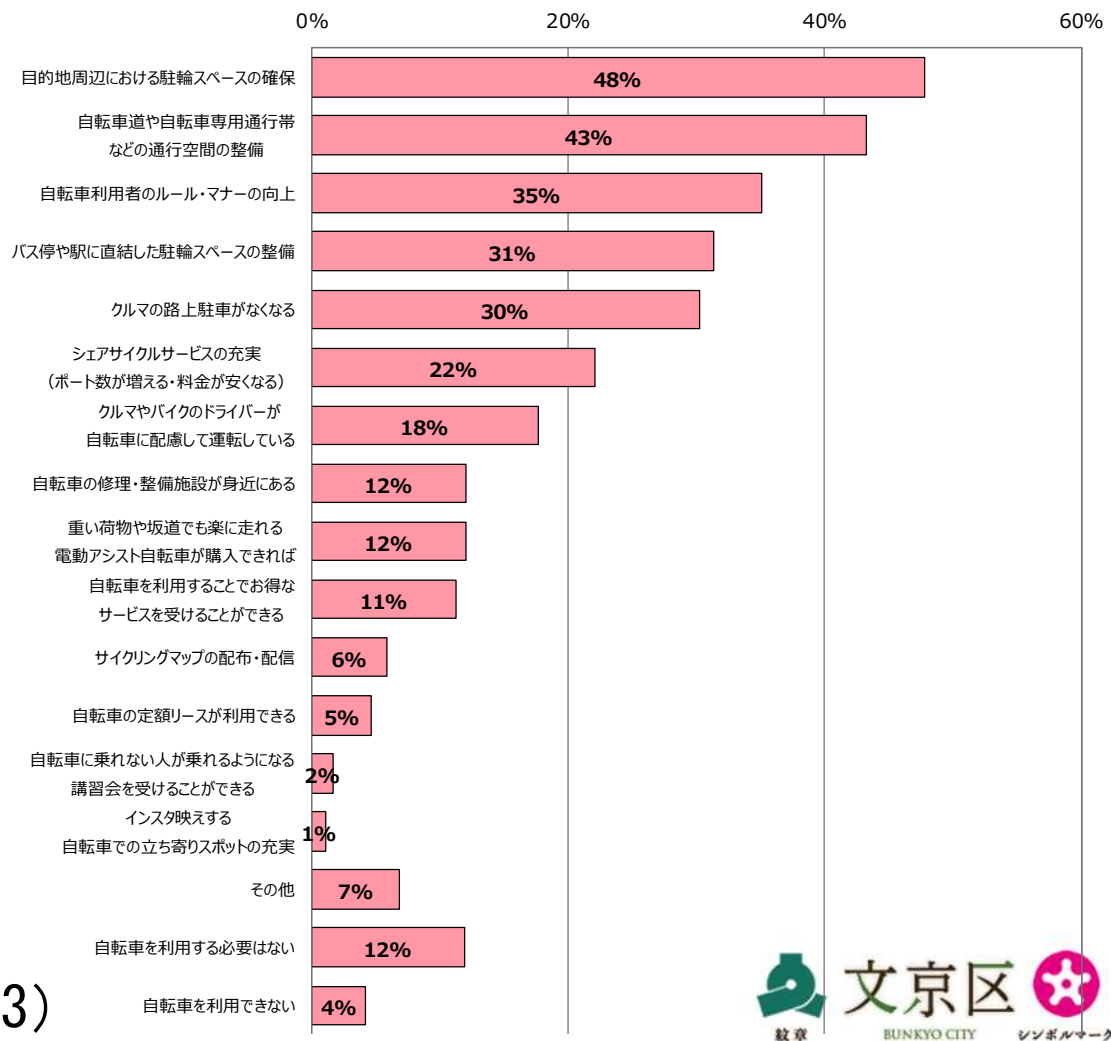
自転車に対する不満点（歩行者視点） n=1116



自転車に対する不満点（ドライバー視点） n=769



今後どのような環境が整えば、より自転車を利用しようと思うか n=1116

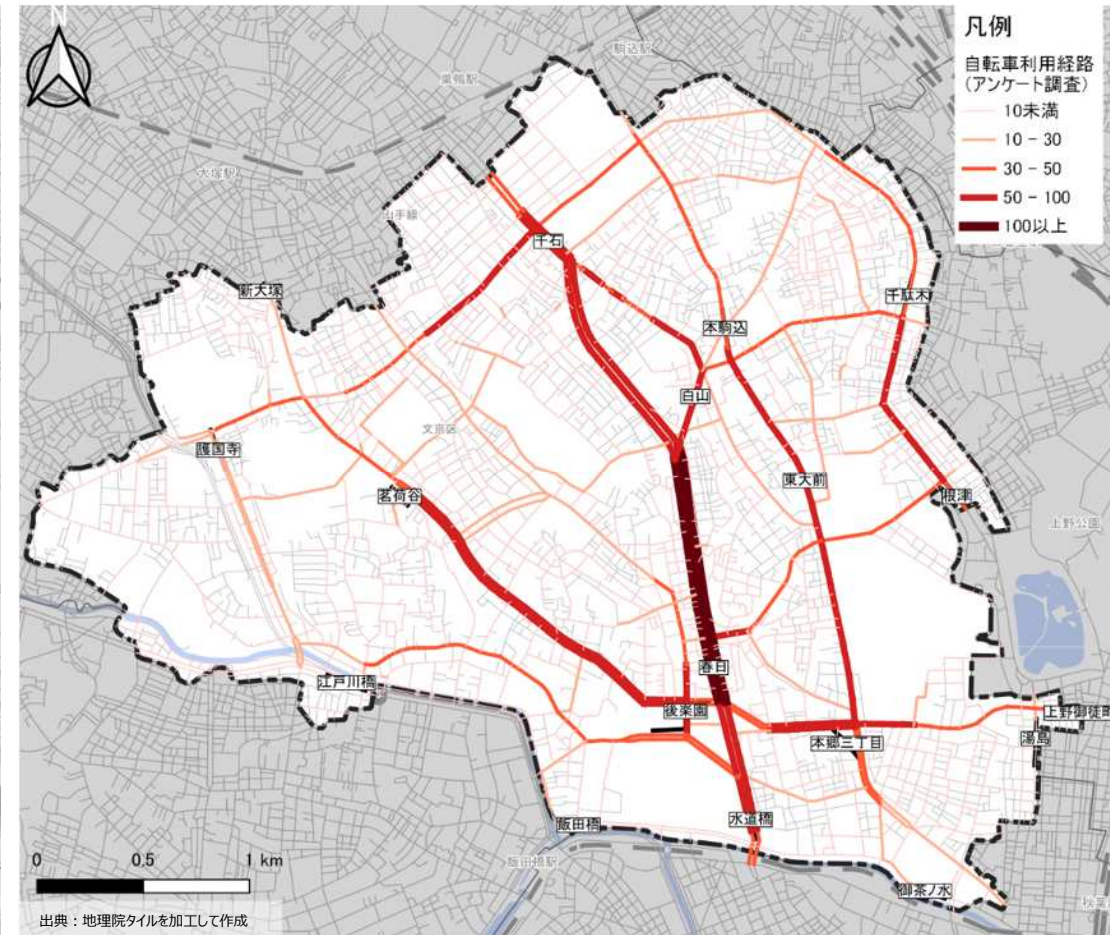
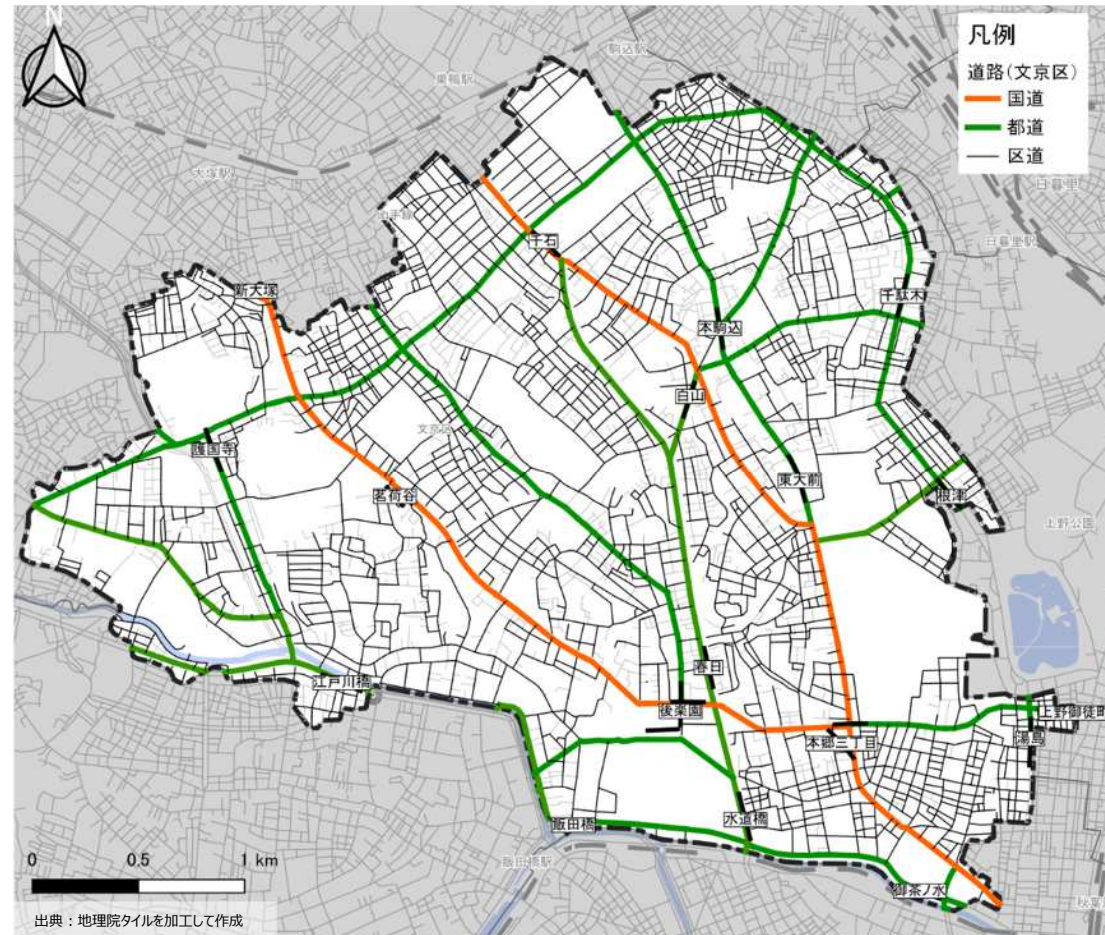


2-2. 区民アンケート

自転車利用経路

- 主に国道、都道において自転車を利用している方が多く、特に白山通り、春日通りに利用経路が集中している。
- また、区道の一部路線でも一定の自転車利用が確認できる。

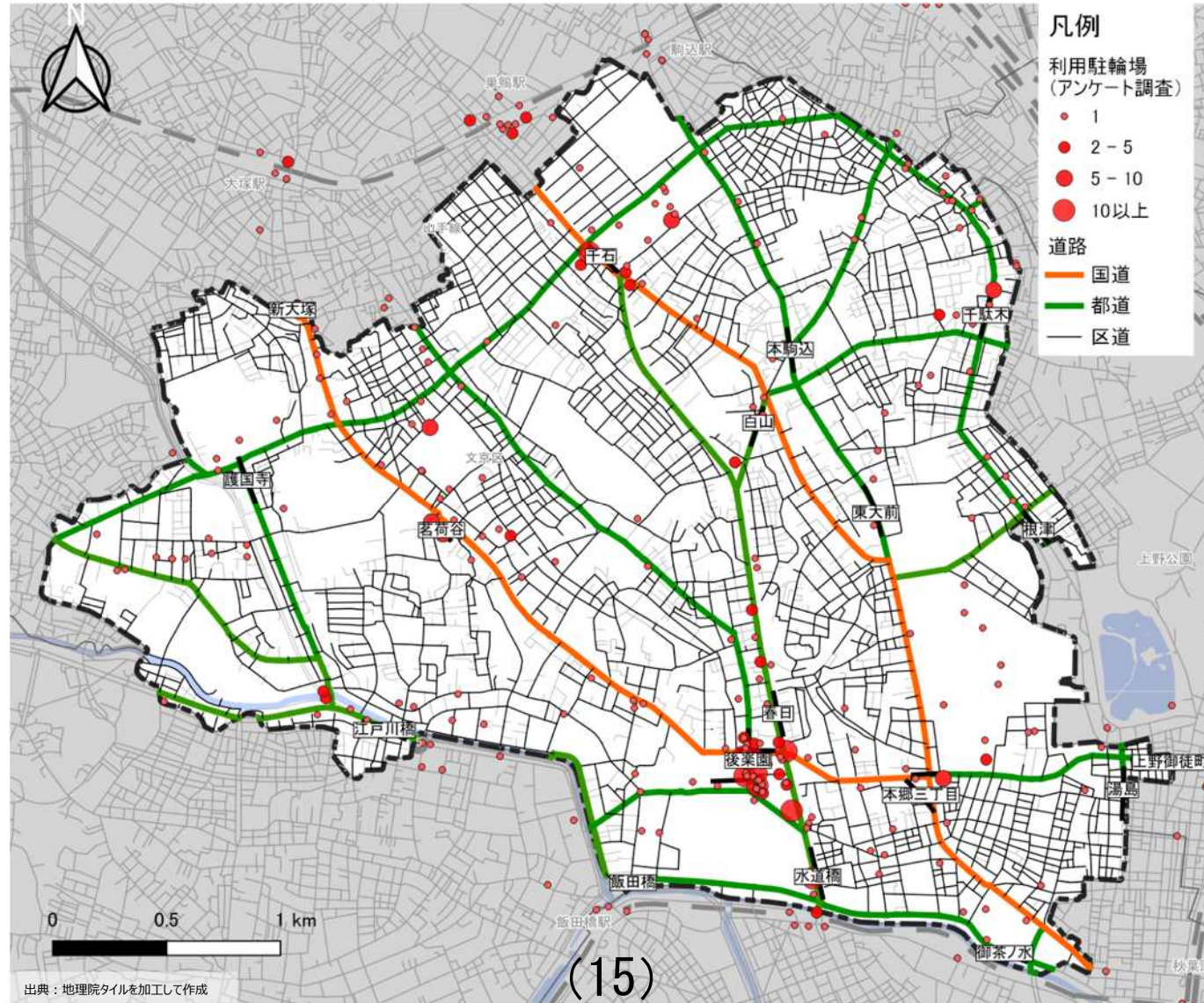
n=593



2-2. 区民アンケート

よく駐輪する場所

- 地下鉄駅周辺の駐輪場の利用が確認でき、特に後楽園駅、千石駅、茗荷谷駅の周辺の駐輪場の利用が多くなっている。

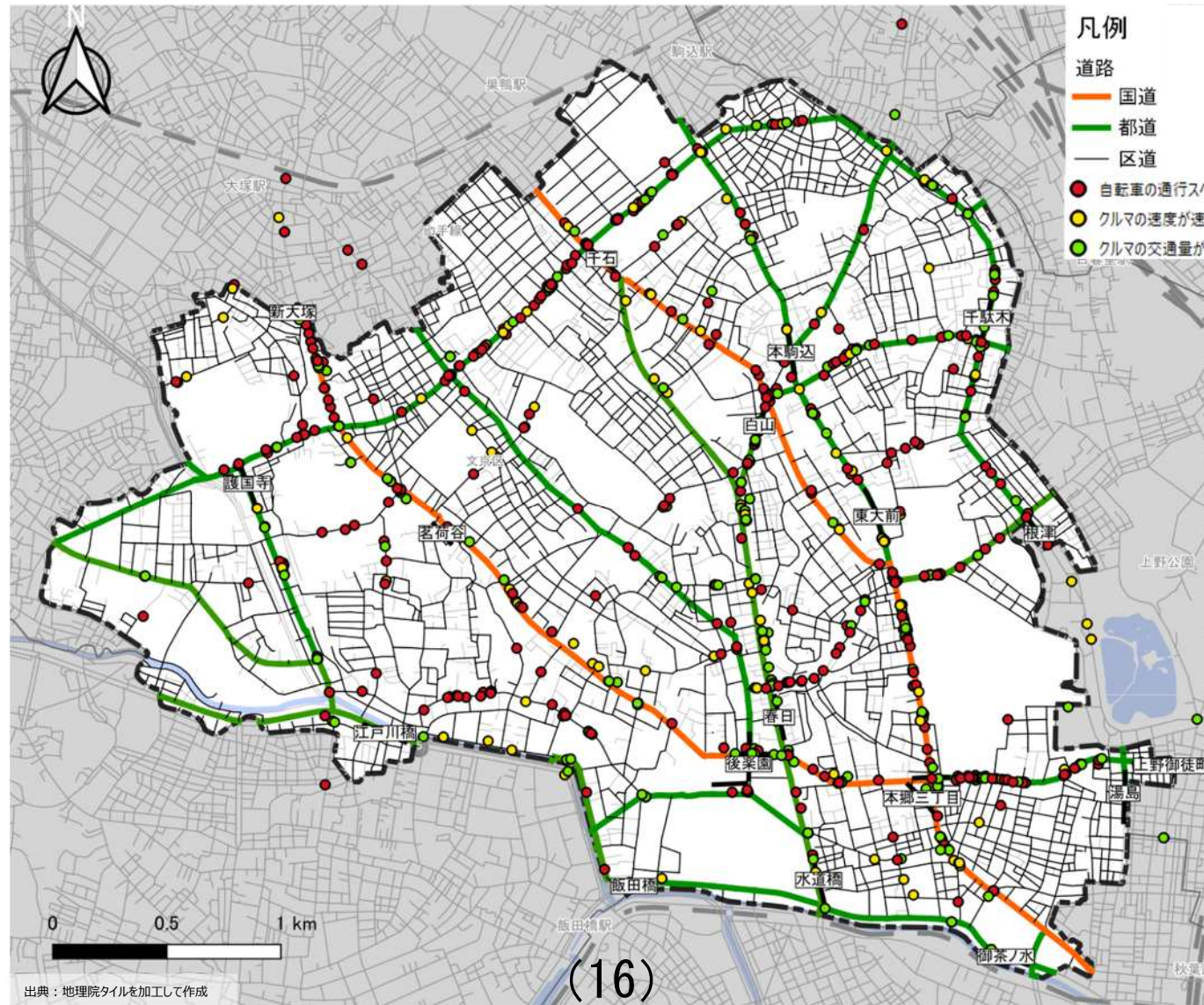


n = 312

2-2. 区民アンケート

危険と感じる箇所 | 自転車に乗っているとき

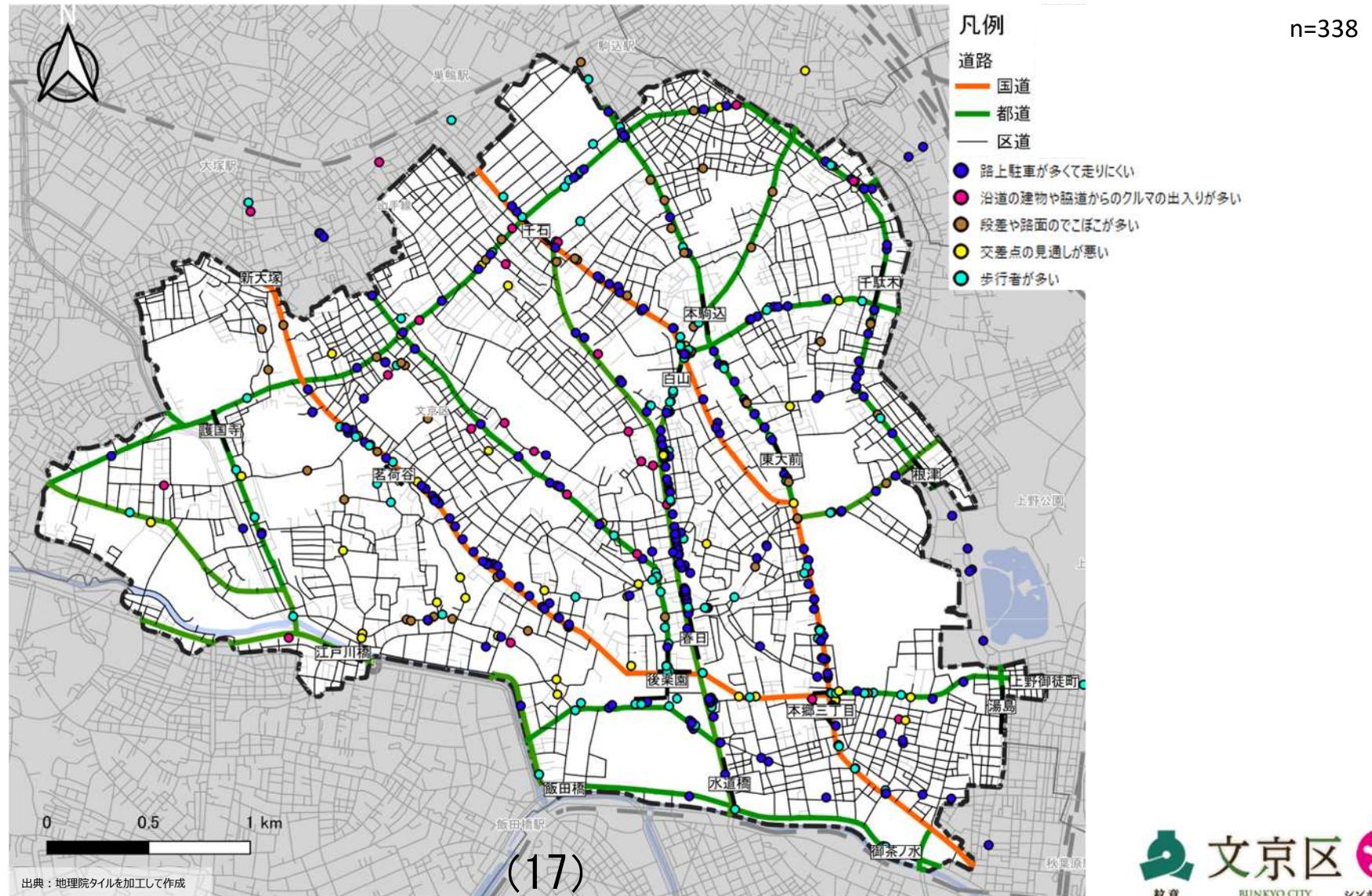
- 「自転車の通行スペースが狭い」と感じる地点は、主に本郷通り、不忍通り、春日通り（新大塚駅周辺）に集中しており、区道の一部路線にも集中している路線が確認できる。
- 「クルマの速度が速い」、「クルマの通行量が多い」と感じる地点は、主に国道や都道上に確認できる。



2-2. 区民アンケート

危険と感じる箇所 | 自転車に乗っているとき

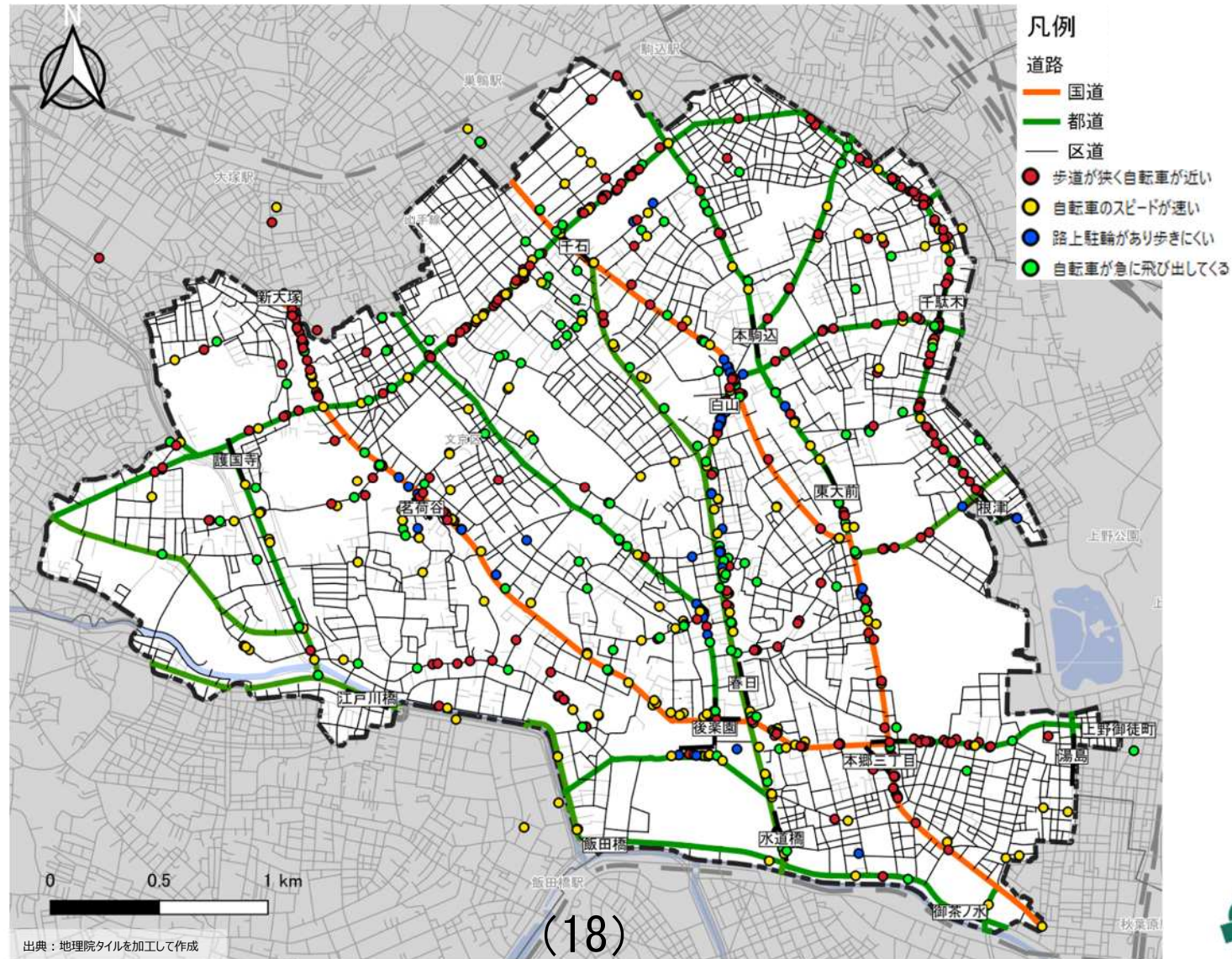
- 「路上駐車が多くて走りにくい」と感じる地点は、主に国道や都道上で確認でき、特に白山通り、春日通りに集中している。
- 「沿道の建物や脇道からクルマの出入りが多い」、「交差点の見通しが悪い」と感じる視点は、区道上でも一定数確認できる。



2-2. 区民アンケート

危険と感じる箇所 | 歩いているとき

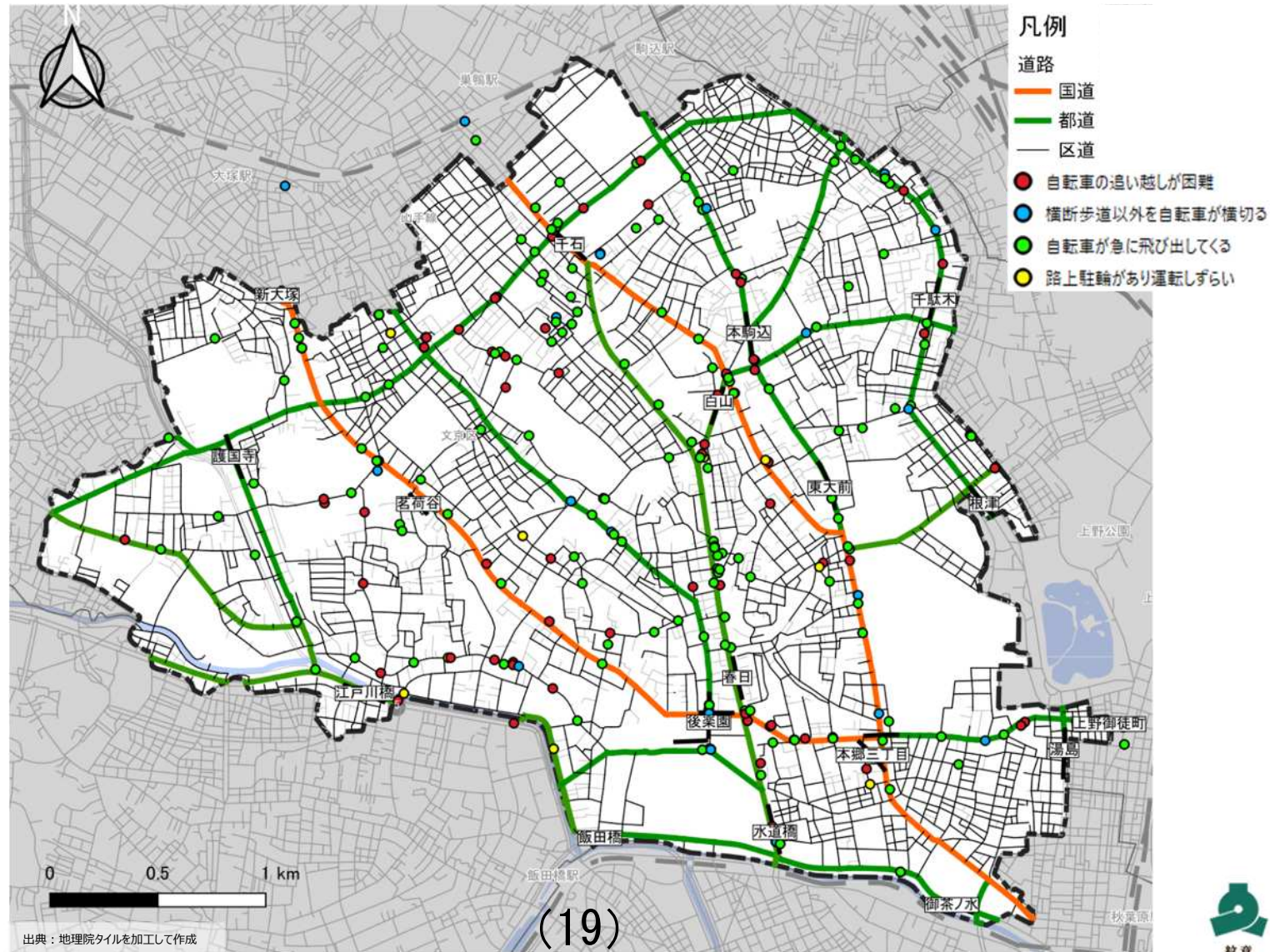
- 「歩道が狭く自転車が近い」と感じる地点は、特に不忍通り、春日通り（新大塚駅周辺）に集中している。
- 「自転車のスピードが速い」と感じる地点は、国道・都道の幹線道路以外に、区道上でも一定数確認できる。
- 「自転車が急に飛び出してくる」と感じる地点は、国道・都道の幹線道路の他、区道上の主に交差点部に集中している。



2-2. 区民アンケート

危険と感じる箇所 | クルマを運転しているとき

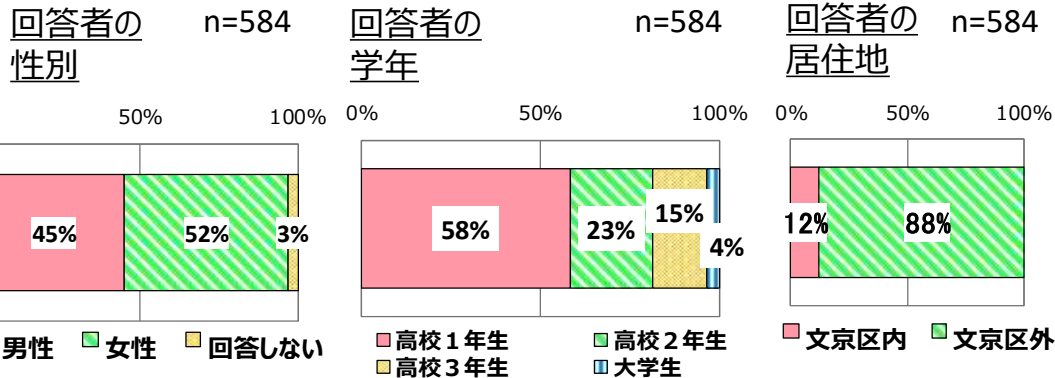
- 「自転車が急に飛び出してくる」と感じる地点は、国道・都道の幹線道路の他、区道上の主に交差点部に集中している。



2-3. 学生アンケート

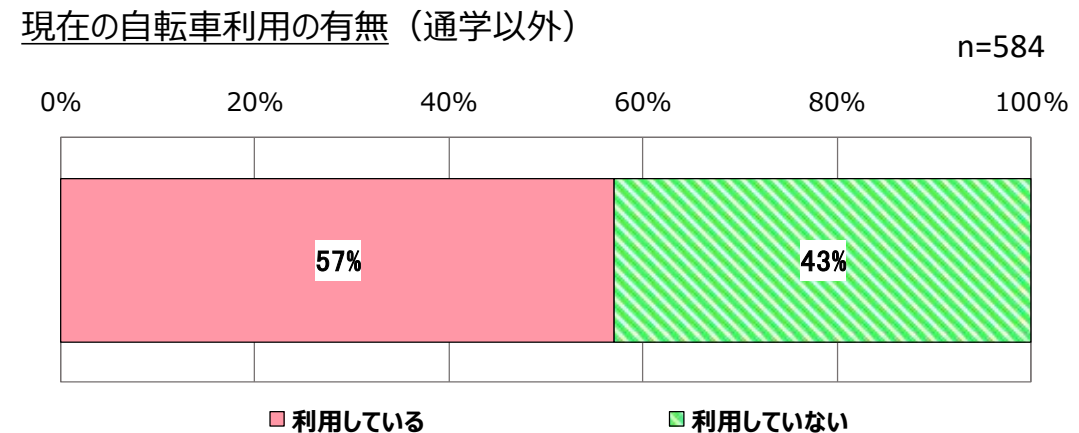
回答者の属性・通学状況

- 回答者は高校生が9割以上であり、高校1年生が最も多い。
- 回答者の居住地は、約9割が文京区外である。
- 通学時の自転車利用者は約2割であり、そのうち 鉄道 + 自転車での通学は5割以上となっている。

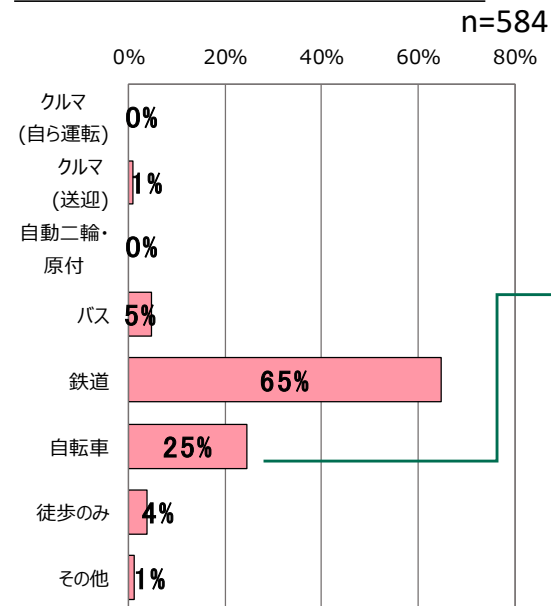


自転車の利用状況について（通学以外）

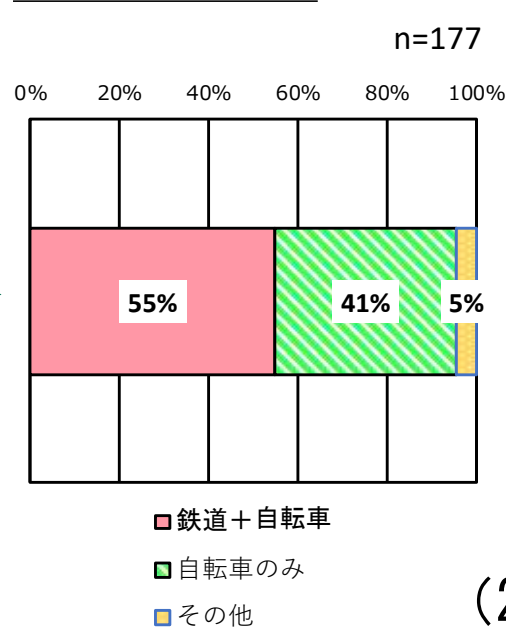
- 学生の約4割が通学時以外で自転車を利用しており、ほぼ毎日利用している人が最も多く、週に2回以上利用する人が半数以上となっている。



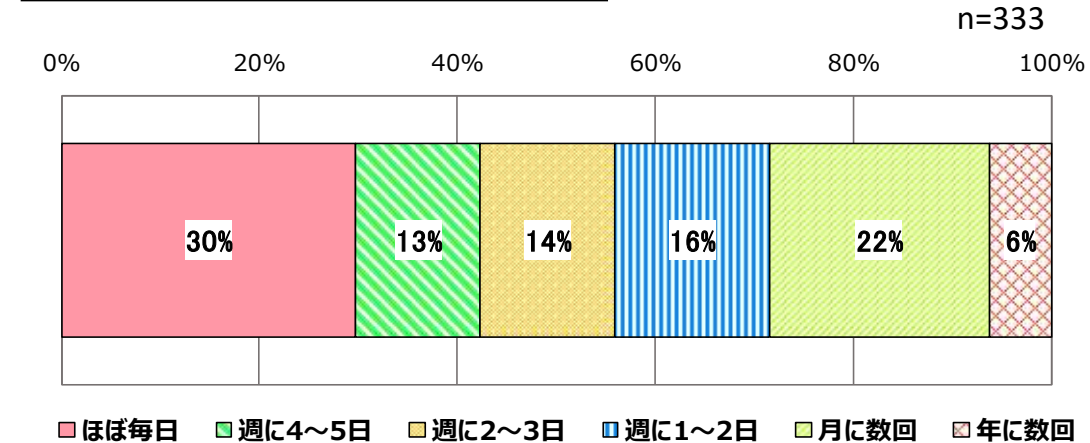
通学時の交通手段（乗継含む）



自転車通学者の内訳



自転車利用者における自転車利用の頻度（通学以外・自転車利用者のみ）

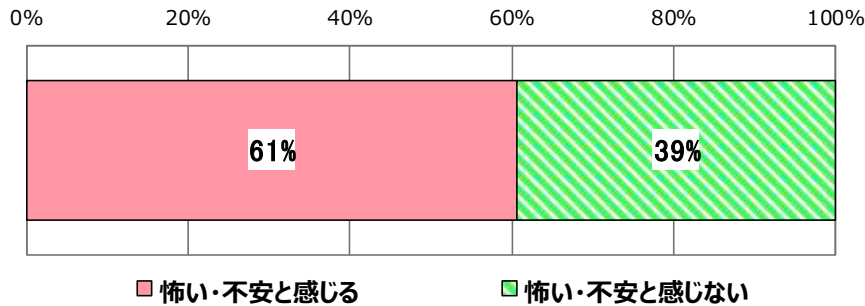


2-3. 学生アンケート

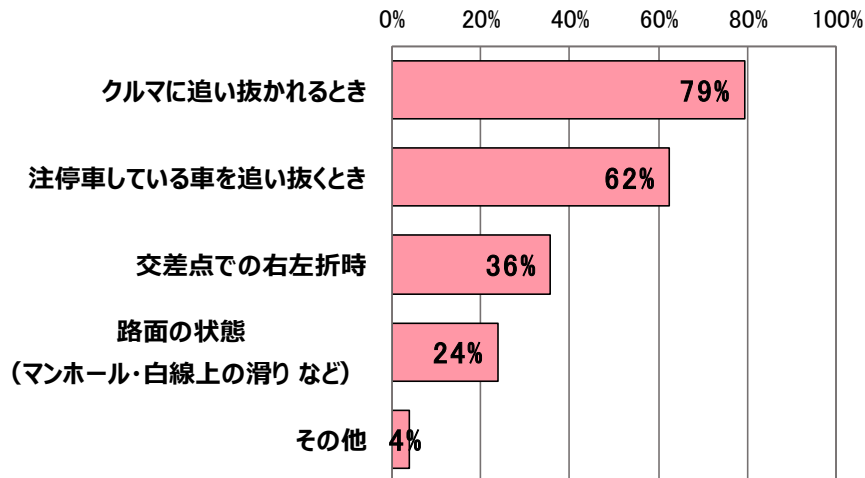
自転車の利用実態について

- 自転車での車道走行時に、約6割の人が走行を怖い・不安と感じている。
- その理由としては、クルマに追い抜かれる時が最も多く、次いで駐停車している車を追い抜く時となっており自動車との接触等に対して不安と感じている人が多い傾向にある。
- 最も多く駐輪する場所が駐輪場である人は約8割である。一方で、路上駐輪の経験がある人は約6割である。
- 路上に駐輪する理由としては、目的地から駐輪場が遠いことや近くの駐輪場を知らないといった、駐輪場の場所に対する理由が多い傾向にある。

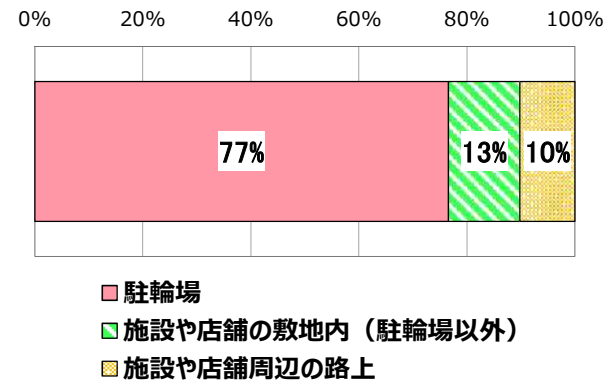
自転車での車道通行に怖い・不安を感じるか n=333



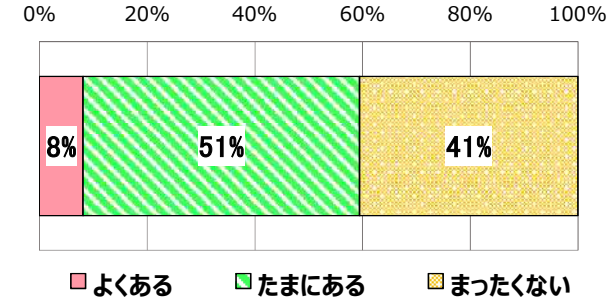
どのようなときに怖い・不安を感じるか n=202



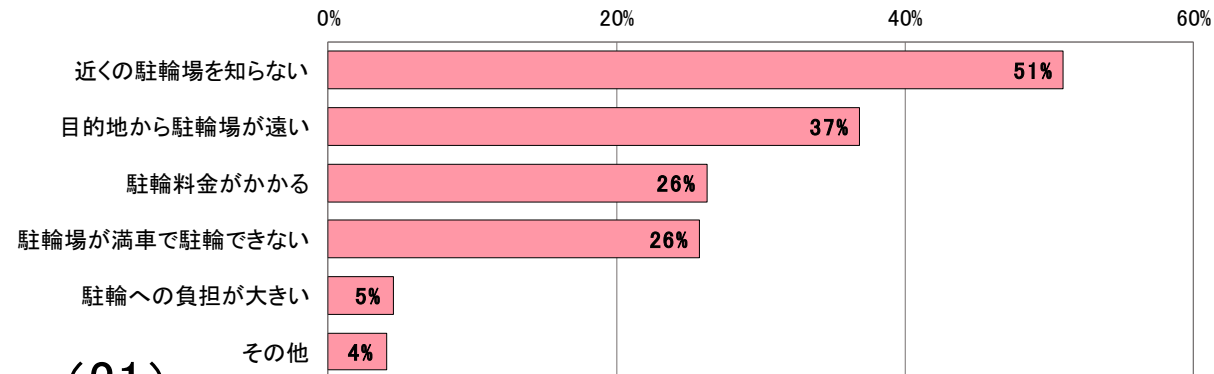
最も多く駐輪する場所 n=333



道路や歩道上に駐輪することがあるか n=333



道路や歩道上に駐輪した理由 n=198

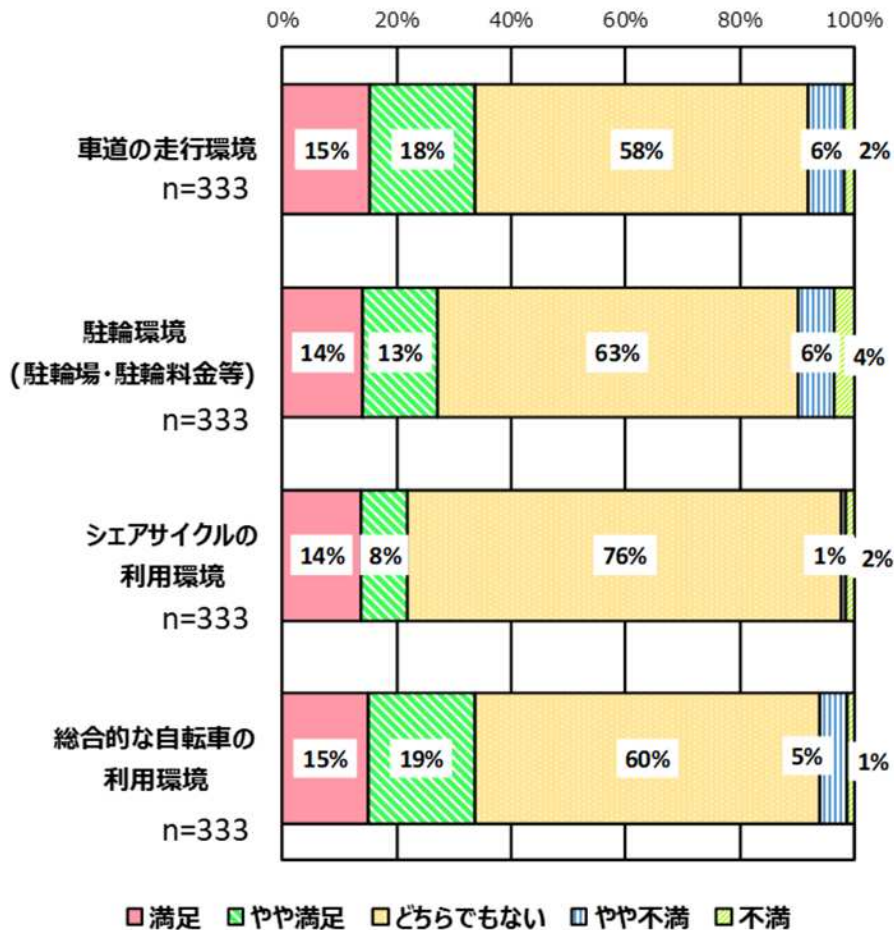


2-3. 学生アンケート

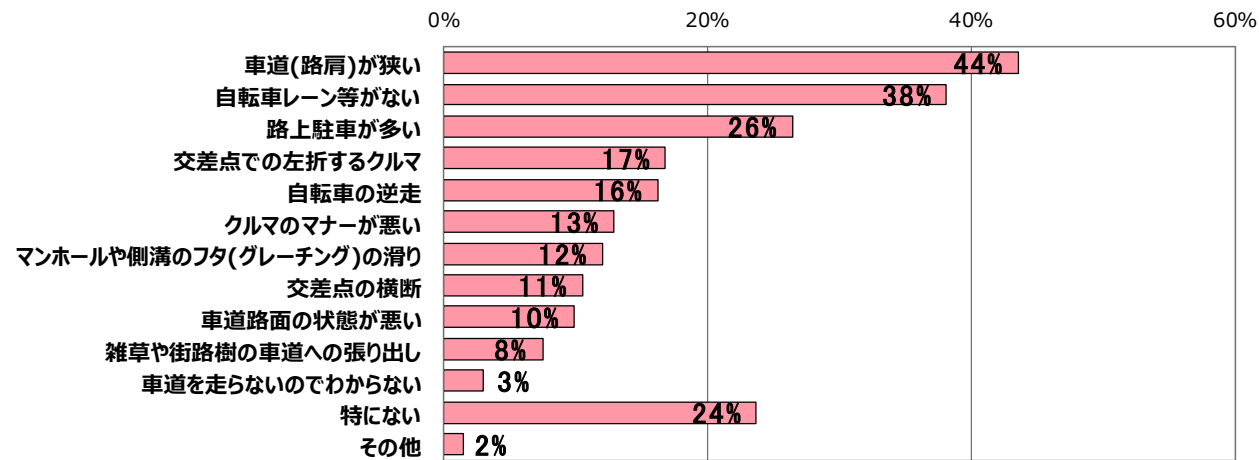
自転車の利用環境に対する意識・意向について

- 文京区内における自転車に対する満足度では、いずれも、満足、やや満足と回答している人が不満、やや不満と回答している人を上回っている。一方でどちらでもないと回答した人が6割～7割存在している。
- 自転車での車道走行に関する不安要素としては、車道(路肩)が狭いことや、自転車レーンなどがないといったことが多い傾向にある。
- 駐輪環境に対する不満要素としては、駐輪可能な台数が少ない、駐輪料金が高い、駐輪場が施設から遠いといった要素が多い傾向にある。

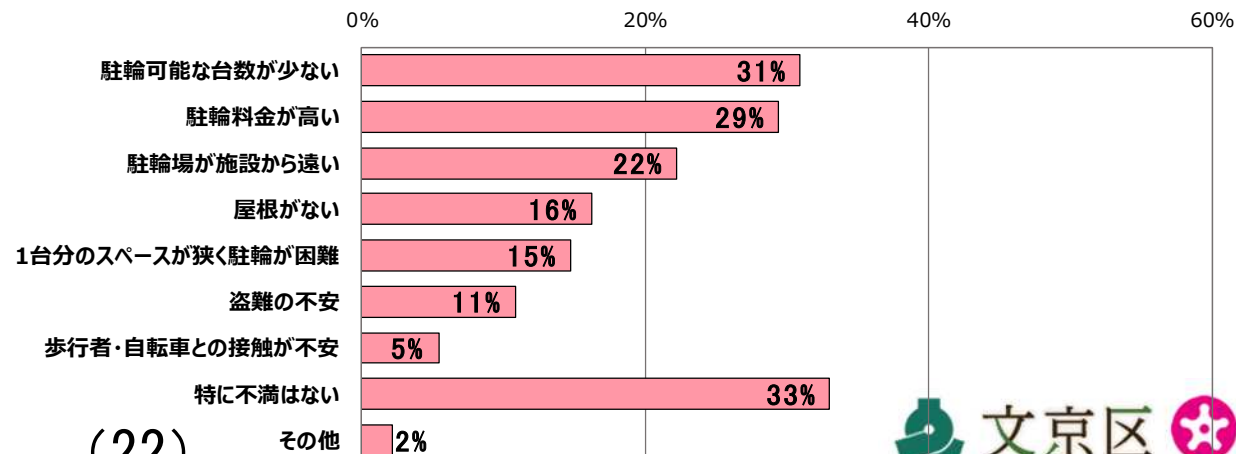
自転車の利用環境に関する満足度



自転車で車道を走行する際に不安・走りにくと感じること



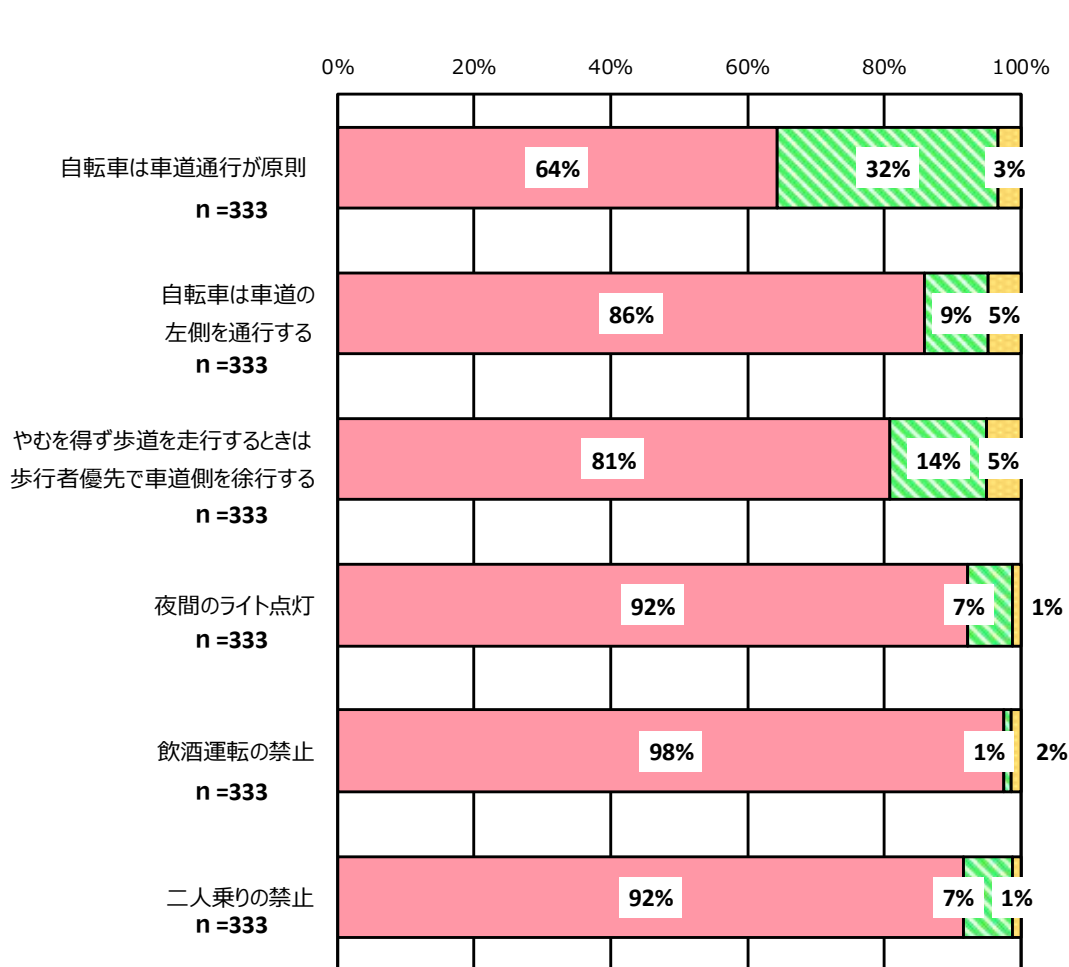
駐輪場についての不満点



2-3. 学生アンケート

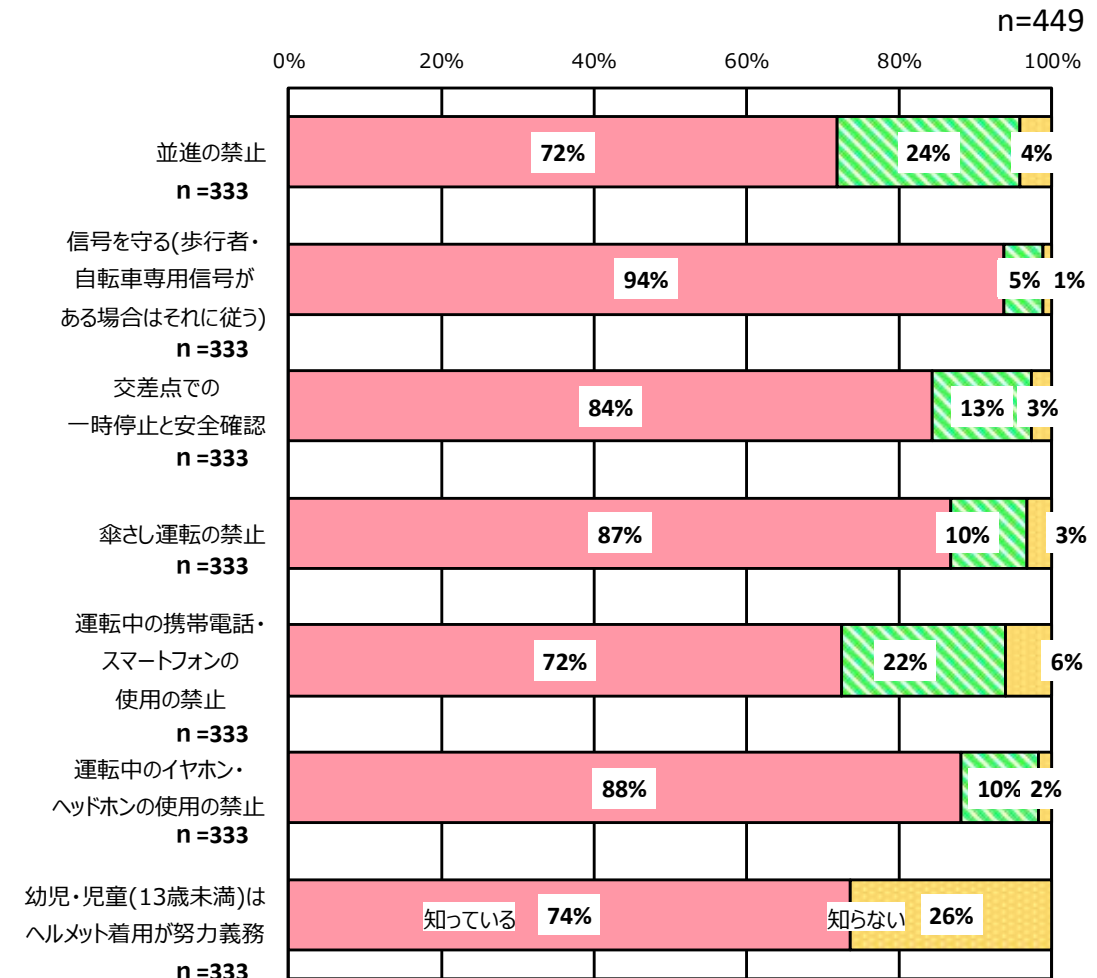
自転車ルールへの遵守状況について

- 自転車は車道通行が原則となっていることをほぼすべての人が知っているものの、約3割の人が知っているが、まもれていないという状況である。
- また、車道の左側を通行することや、やむを得ず歩道を走行するときは歩行者優先で、車道側を徐行する、といった走行位置に関するルールについても、ほぼすべての人が知っているものの、知っているが、まもれていない人が約1割存在している。
- 並列走行の禁止や、運転中のスマートフォンの使用禁止については、ルールは知っているものの、守れていない人が約2割存在している。



■ 知っており、まもっている
 ■ 知っているが、まもれていない
 ■ 知らない

(23)



■ 知っており、まもっている
 ■ 知っているが、まもれていない
 ■ 知らない

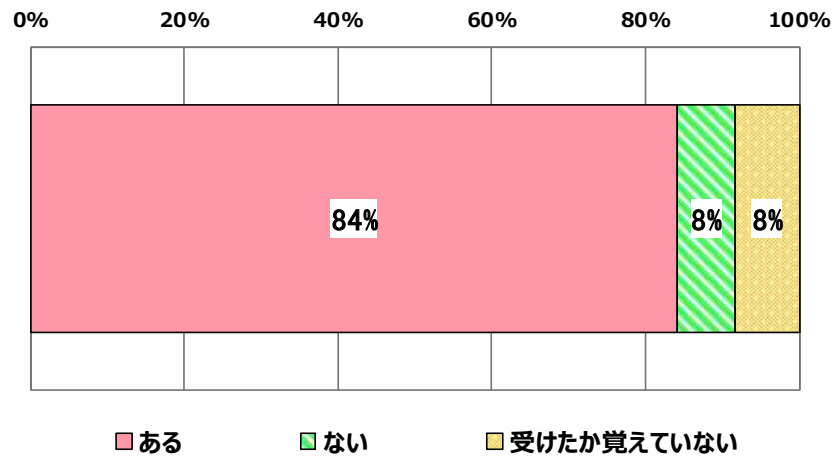
2-3. 学生アンケート

自転車安全教育の受講状況について

- 自転車安全教育を受けたことがあると回答した人が約8割となっている。
- 自転車安全教育の受講時期は小学校以前に約8割の人が受けており、それ以降は徐々に減少している傾向である。

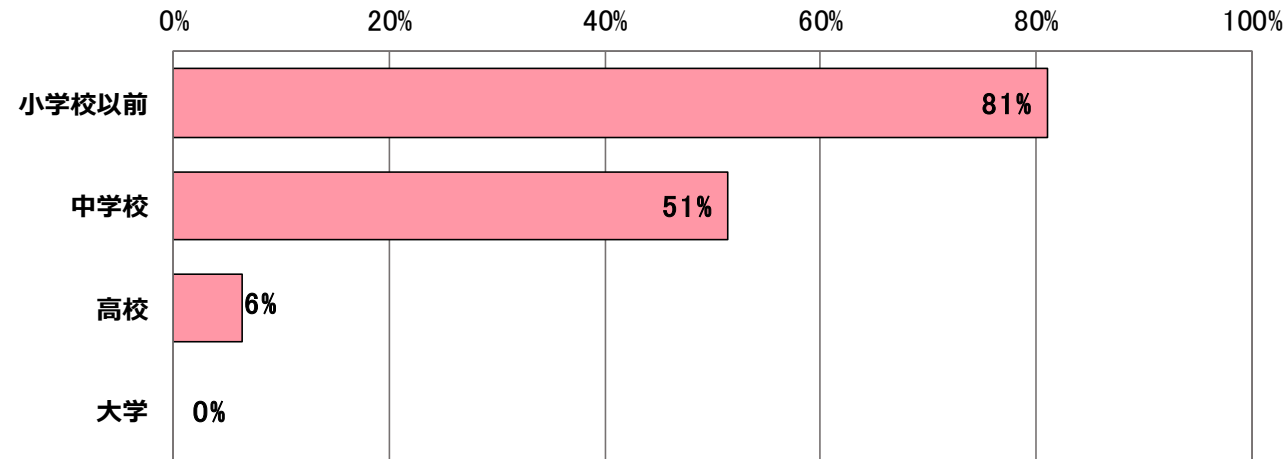
自転車に関する安全教育を受けたことがあるか

n=333



自転車に関する安全教育の受講時期（受講経験のある方）

n=280



2-3. 学生アンケート

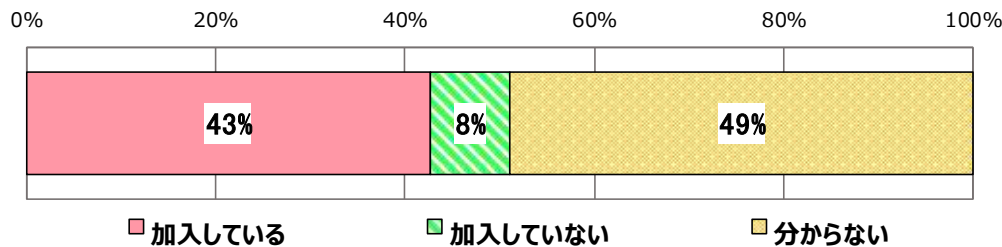
自転車の利用に関する安全意識

- 自転車保険に加入している人は約4割で、加入理由としては、親・親族の加入や、加入義務化が多い傾向となっている。
- また、加入していない理由としては、自転車保険の存在や加入義務について知らないことや、加入の必要性を感じていないことが高い傾向となっている。

- ヘルメットを持っている人は約2割となっており、そのうち着用している人は3%程度しか存在していない状況である。
- 定期的な自転車の整備点検を行っている人は、半数以下となっており、自分で行っている人の方が若干多い傾向である

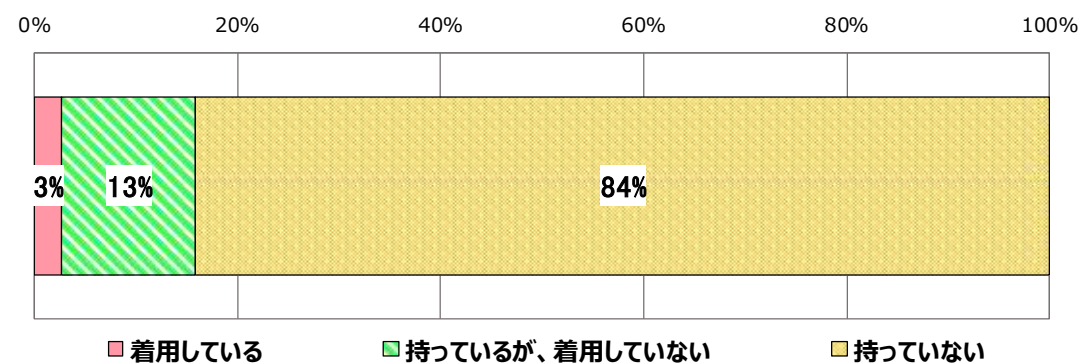
自転車保険の加入状況

n=333



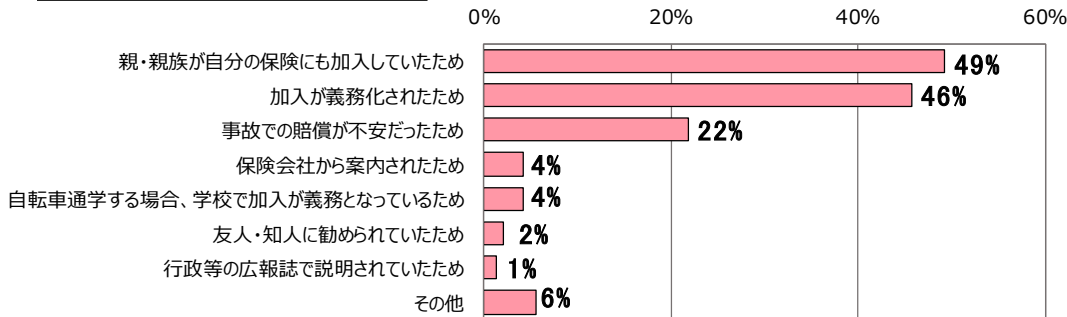
自転車を利用する際にヘルメットを着用しているか

n=333



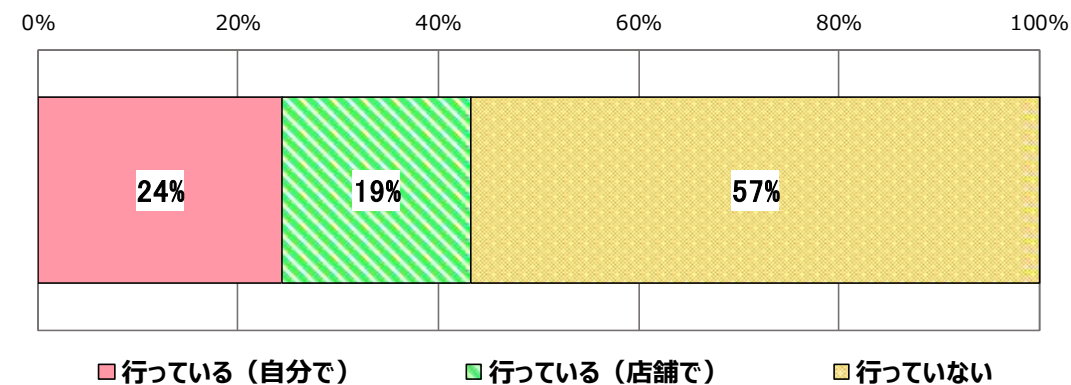
自転車保険に加入した理由

n=142



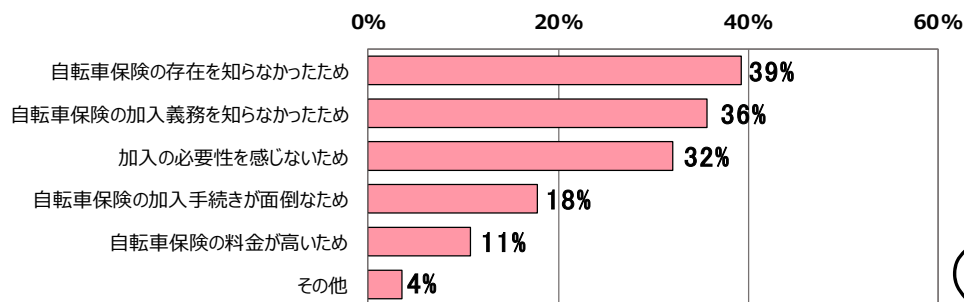
自転車を定期的に点検・整備しているか

n=333



自転車保険に加入していない理由

n=28



2-3. 学生アンケート

自転車に対する意見

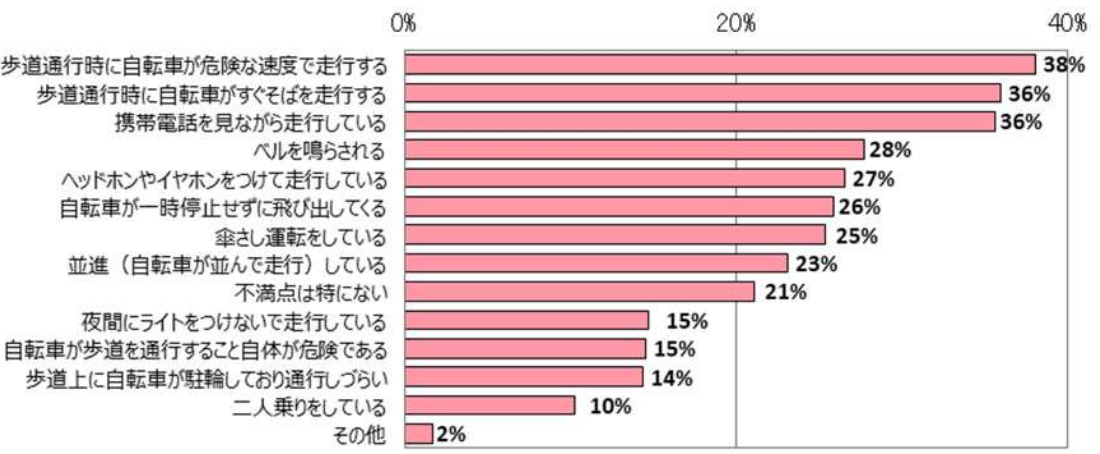
- 歩行者視点の自転車への不満点としては、歩道通行時の速度が速いことや接触に対する不満が多く、次いでスマホの利用が高い傾向である。
- ドライバー視点の自転車への不満点としては、スマホの利用や左側通行が出来ていないこと、車道の逆相に対する不満が多い傾向となっている。

- 自転車利用環境全体への要望としては、目的地周辺やバス停、駅前などへの駐車スペースの設置が高い傾向となっており、次いで、通行空間の整備となっている。
- また、自転車利用者のルール・マナーの向上も比較的高い傾向である。

今後どのような環境が整えば、より自転車を利用しようと思うか n=584

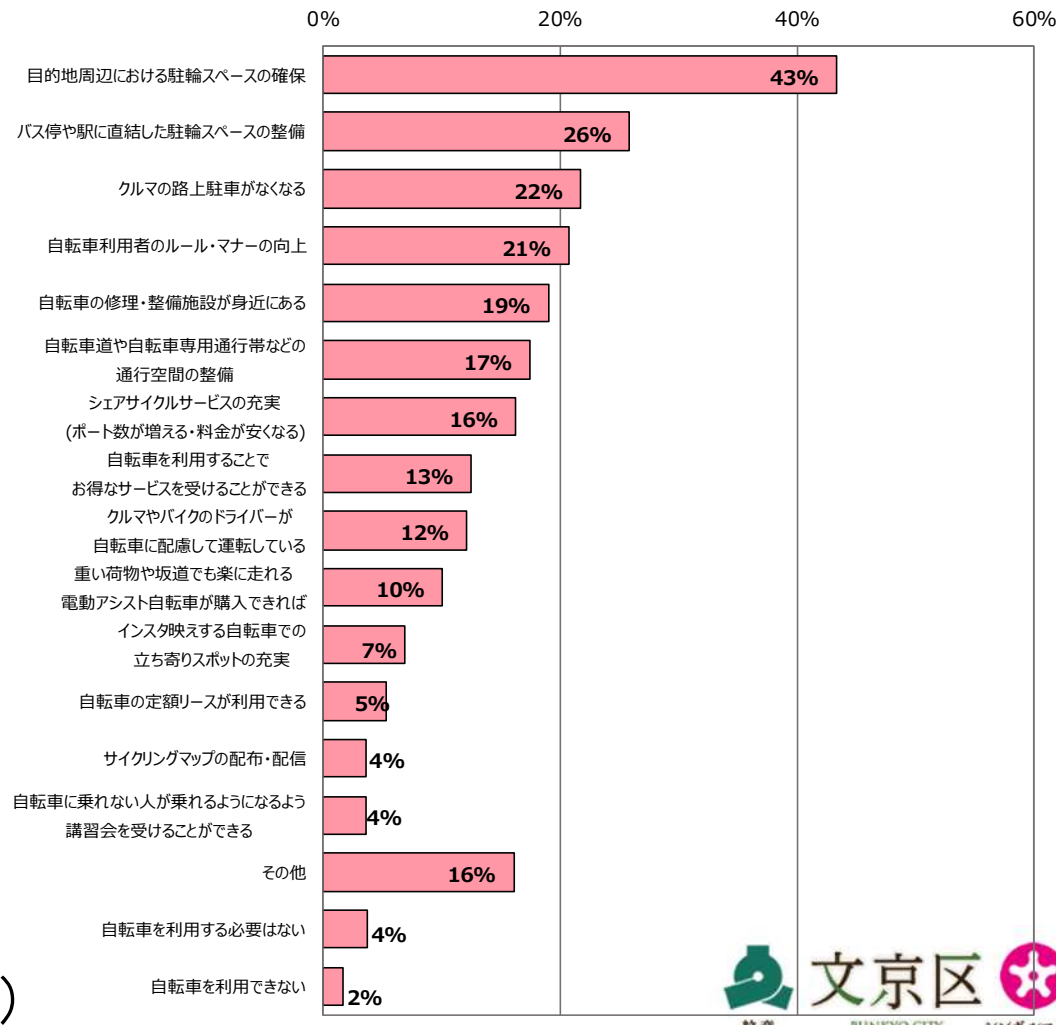
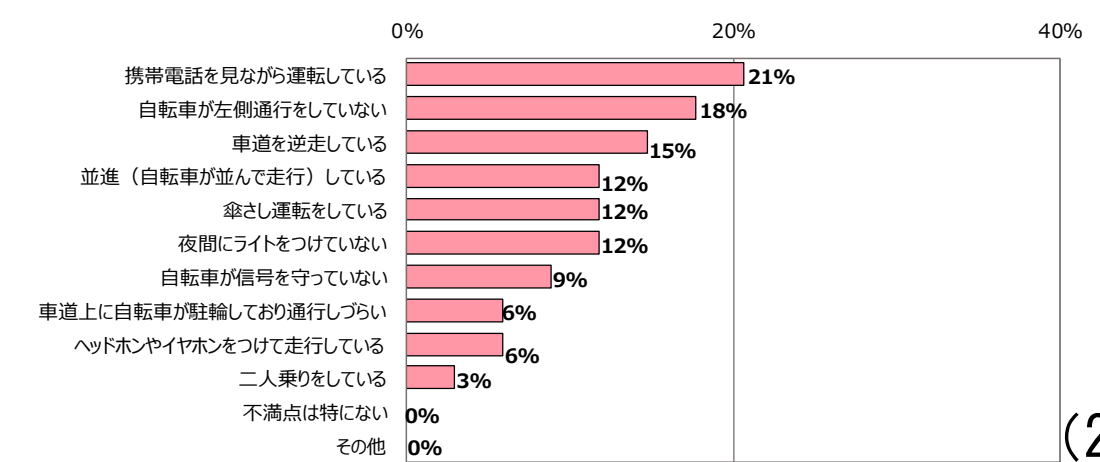
自転車に対する不満点（歩行者視点）

n=584



自転車に対する不満点（ドライバー視点）

n=34



2-4. 区外勤務者アンケート

回答者の基本属性

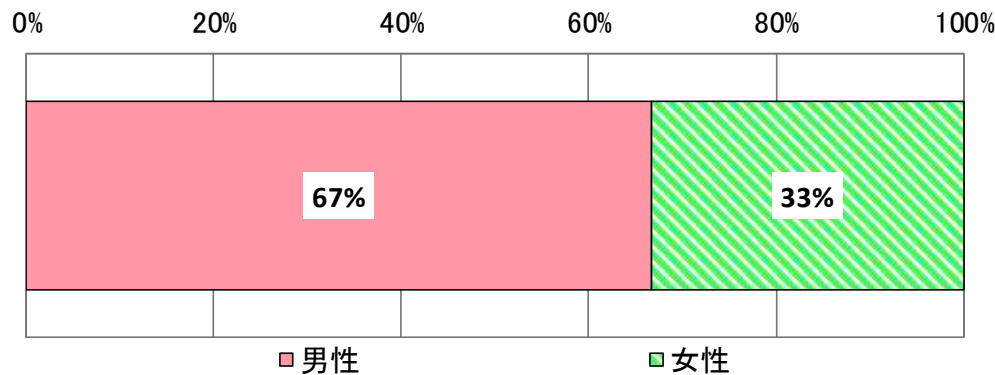
- 回答者の性別は男性が7割と多くなっている。
- 回答者の年齢は40代が最も多く、次いで50代、60代の順となっている。

自転車通勤の状況

- 自転車通勤時の移動パターンは、自宅から会社まで自転車で通勤する人が約8割と最も多い。
- 自転車通勤時の駐輪場について、約8割の人が会社もしくは近くの駐輪場を使用している。

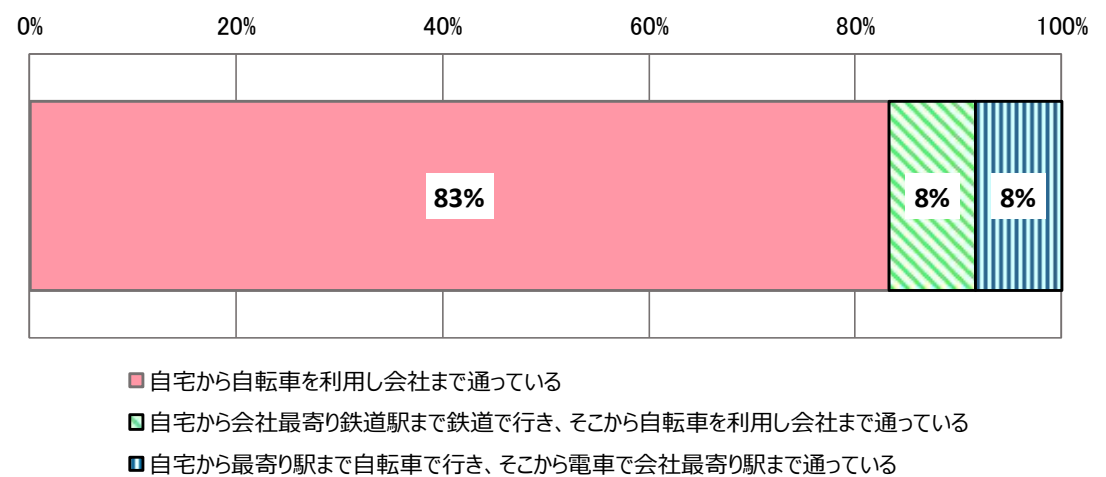
回答者の年齢構成

n=24



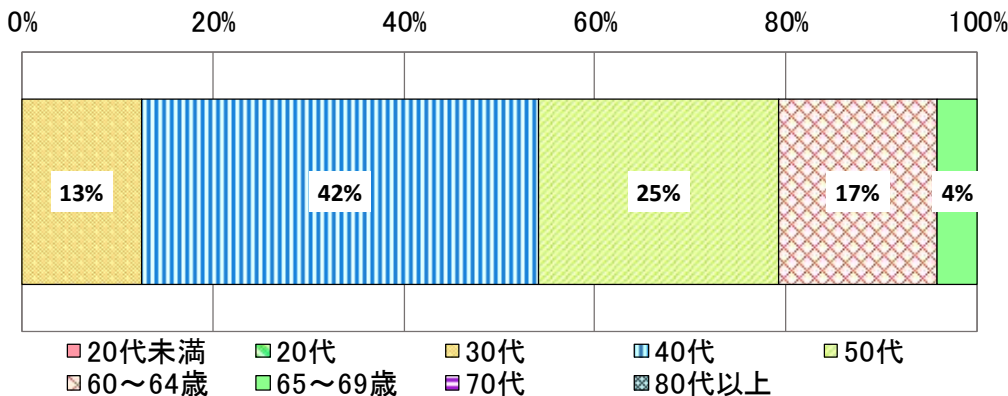
自転車通勤時の移動パターン

n=24



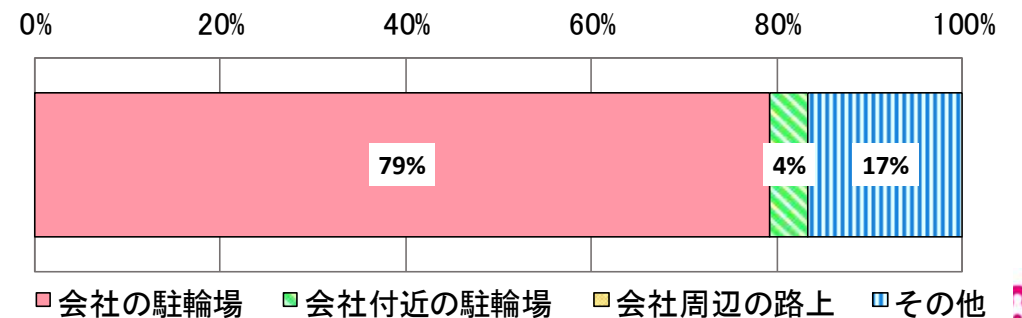
回答者の年齢構成

n=24



自転車通勤時に最も多く駐輪する場所

n=24

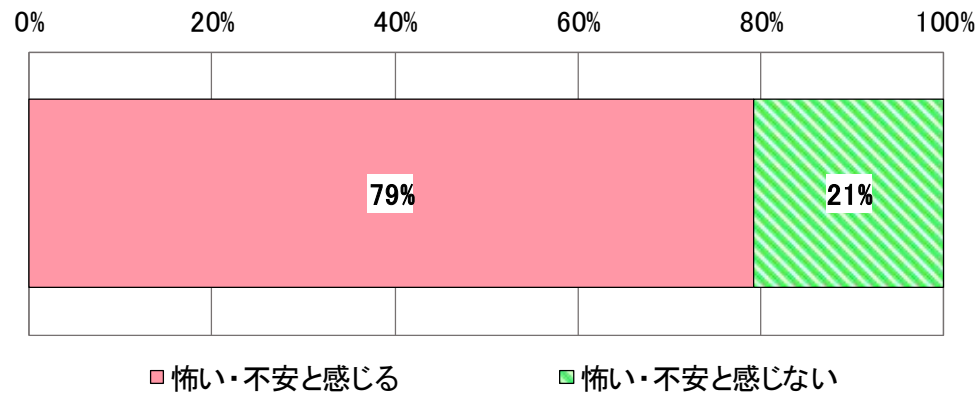


2-4. 区外勤務者アンケート

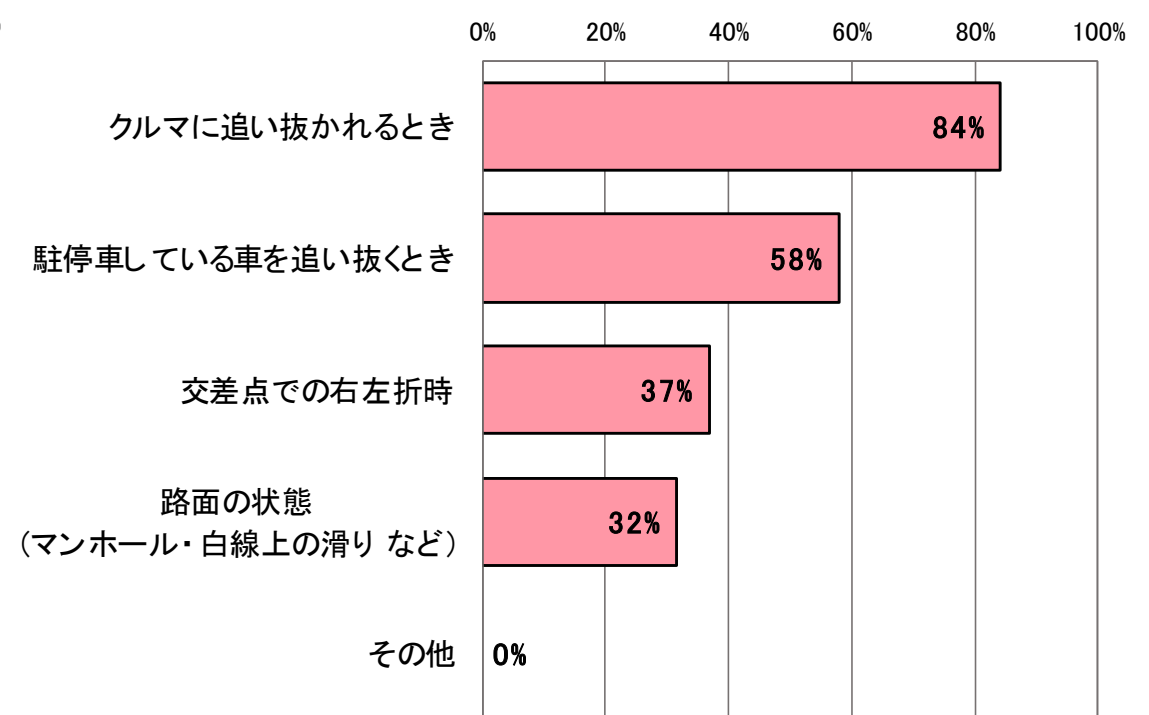
自転車の利用実態について

- 自転車での車道通行に対して、怖い、不安と感じる人が7割以上存在している。
- その理由としては、車に追い抜かれる時が最も多く、次いで駐停車している車を追い抜く時となっており、自動車との接触等に対して不安を感じている人が多い傾向にある。

自転車での車道通行に怖い・不安を感じるか n=24



どのようなときに怖い・不安を感じるか n=19

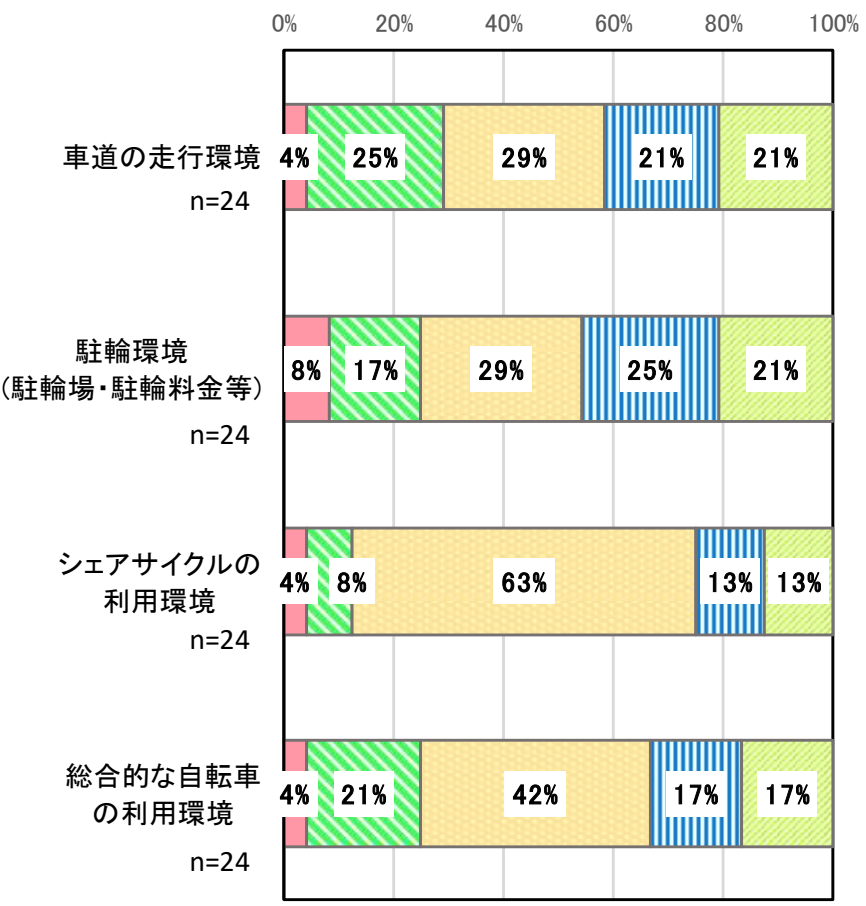


2-4. 区外勤務者アンケート

自転車の利用環境に対する意識・意向について

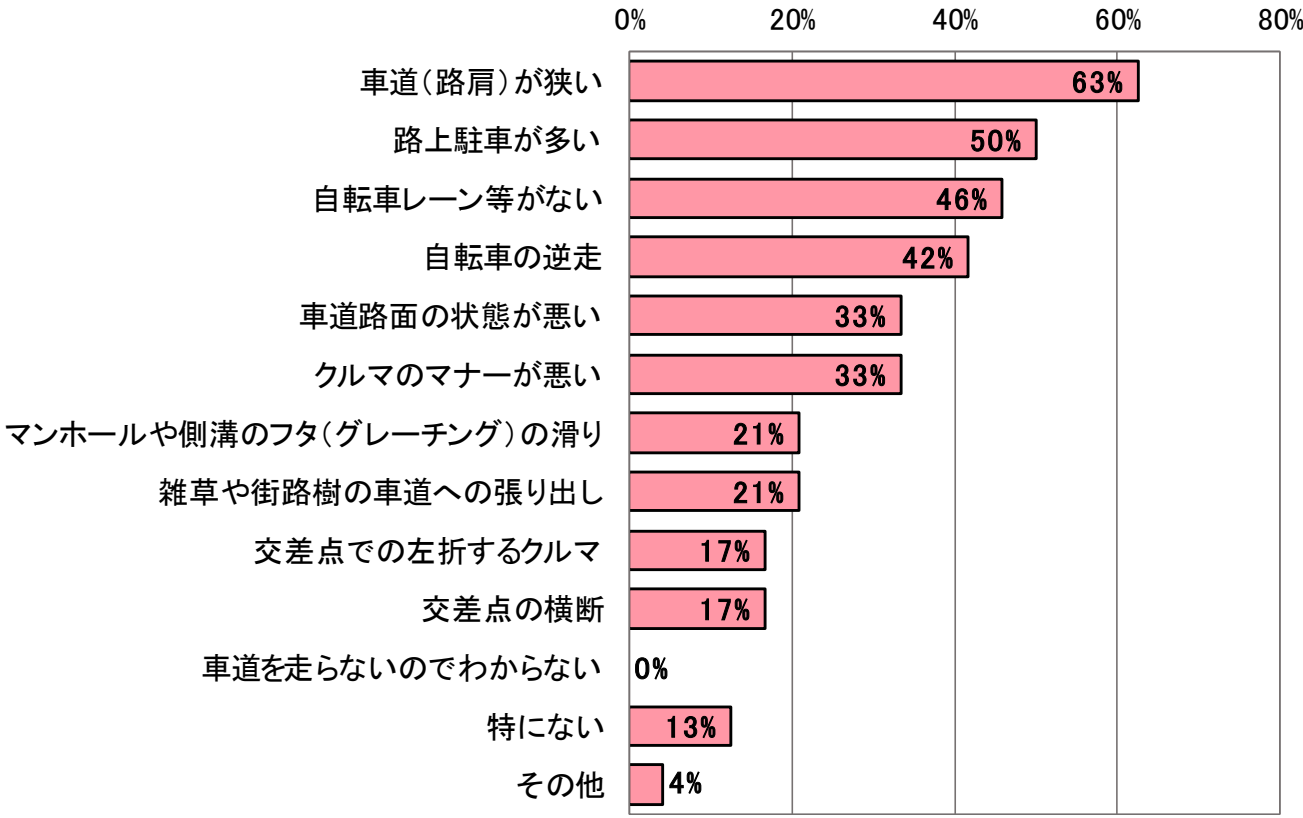
- 文京区内における自転車に対する満足度では、駐輪環境や走行環境について、不満、やや不満と回答している人が満足、やや満足と回答している人を上回っており、総合的な自転車の利用環境においても、不満側の割合が高い傾向にある。
- 走行環境に対する不安要素としては、車道が狭い、路上駐車が多い、自転車レーン等がないといった路肩走行等に対する要素が多い傾向にある。

自転車の利用環境に関する満足度



自転車で車道を走行する際に不安・走りにくいと感ずること

n=24



■満足 ■やや満足 ■どちらでもない ■やや不満 ■不満

2-5. アンケート調査結果のまとめ

- 区民アンケート、学生アンケート、区外勤務者アンケートの調査結果について、自転車利用状況、自転車利用環境への満足度、交通安全意識、自転車に対する意見の結果をまとめる。

● 自転車利用状況

- 区民の約4割、学生の約6割が現在自転車を利用している。また、学生の約2割は通学時に自転車を利用している。
- 自転車を利用している人の自転車利用頻度は、ほぼ毎日が2～3割であり、半数以上が週に2日以上となっている。また、区民における自転車の利用目的は買物・食事が半数以上である。
- 自転車での車道通行に対して、区民の9割以上が不安を感じており、自動車との接触等に対して不安を感じている人が多い傾向にある。

● 自転車利用環境への満足度

- 区民の自転車利用環境に対する満足度は、全体的に不満側の割合が高い傾向にある。
- 車道走行への不安要素は、車道が狭い、路上駐車が多い、自転車レーンがない等、路肩走行に対する要素が多い傾向である。
- 駐輪場への不満要素は、駐輪可能な台数が少ない、スペースが狭く駐輪が困難、駐輪場が施設から遠い等が多い傾向である。

● 自転車交通安全意識

- 自転車は車道通行が原則となっていることを区民のほぼすべての人が知っているものの、半数以上の人が守れていない状況である。
- 学生においては、並列走行の禁止や、運転中のスマートフォンの使用禁止についてルールは知っているものの、守れていない人が約2割存在している。
- 区民の約半数が自転車安全教育を受けたことがない。一方、学生の約8割は自転車安全教育を受けたことがある状況である。
- 自転車保険に加入している区民は約7割である。自転車保険に加入していない理由としては、加入義務の存在を知らないことや加入手続きが面倒であることが高い傾向となっている。

● 自転車に対する意見

- 歩行者視点の自転車への不満点としては、歩道通行時の速度が速いことや自転車との接触に対する不満が多い傾向である。
- ドライバー視点の自転車への不満点としては、信号無視や逆走、左側通行が出来ていないことに対する不満が多い傾向である。
- 自転車利用環境全体への要望としては、目的地周辺やバス停、駅前などへの駐車スペースの設置が高い傾向となっており、次いで、通行空間の整備となっている。

3. 事業者・団体ヒアリング

3-1. 事業者・団体ヒアリングの概要

- 自転車通勤等の現状や将来的な自転車通勤への転換可能性等の把握のため、区内の事業者に対してヒアリング調査を実施する。
- また、自転車の利用状況、自転車利用者等による施設側への負担や駐輪場施設への設置義務等への対応状況を把握するため、区内の商業施設に対してヒアリング調査を実施する。
- さらに、障害者の視点から自転車に関する課題を把握するために、障害者団体に対してヒアリングを実施する。

<調査対象>

ヒアリング対象		ヒアリング対象団体数	
		自転車通勤制度有	自転車通勤制度無
事業所	従業員数500人以上	1社	3社
	従業員数100人未満	2社	2社
商業施設（附置義務対応済み）		3施設 (店舗面積1,000㎡以上2施設、店舗面積500㎡～1,000㎡1施設)	
障害者団体		3団体	

3-2. 区内の自転車通勤の状況(事業所へのヒアリング)

(1) 自転車通勤の現状

- 自転車通勤制度有の事業所において自転車通勤者は、1~4割程度（自宅から駅・バス停間の利用も含む）
- 自転車通勤に関する課題は、従業員の自転車事故発生時の対応である。
- 申請時には、自転車保険の加入状況や防犯登録の有無を確認している事業所が多い。
- 自転車に限らない交通安全教育の実施をしている事業所がほとんどである

<調査結果>

項目	自転車通勤制度有
通勤状況	<ul style="list-style-type: none"> • 従業員の居住地は、文京区内1割、区外9割 • 自転車通勤1割以下の事業所が多い。また、自転車通勤が4割程度の事業所でも自宅から駅・バス停間の利用が中心
自転車通勤制度	<ul style="list-style-type: none"> • 申請者には、基本的には自転車通勤を許可。2km圏内に居住していること等の条件付きで許可している事業所もある • 申請者に、毎月通勤手当を支給（月2000円）している事業所もある • 申請時には、保険加入状況や防犯登録番号の確認、駐輪場確保の義務付けを実施している事業所もある
自転車通勤に関する取組・設備状況	<ul style="list-style-type: none"> • 設備として、敷地内に駐輪スペース設置している事業所もある • 自転車に限らない交通安全教育を実施している事業所が多い
自転車通勤に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> • 最も懸念されているのは自転車事故であり、基本的には公共交通機関を利用を推進している • 交通安全に関する研修費用が負担となっている

3-2. 区内の自転車通勤の状況(事業所へのヒアリング)

(2) 将来的な自転車利用の転換可能性

- 自転車通勤する従業員が1割以下の事業所が多く、また鉄道利用が多い
- 主に移動中の自転車事故や駐輪スペースの確保を懸念し、自転車通勤制度の導入やシェアサイクルの活用を検討していない事業所が多い
- 自転車推進をしていないものの、従業員の健康や交通安全に関する取組を実施する事業所は多い

<調査結果>

項目	自転車通勤制度無
通勤状況	<ul style="list-style-type: none"> • 「文京区内」に居住する従業員が1割以下である企事業所が多い • 「鉄道利用」が9割以上の事業所が多い
自転車通勤制度の導入に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> • 通勤中の事故を懸念して、自転車通勤制度を導入していない事業所が多い • 導入した場合、自転車保険の扱い、自転車の破損や盗難に関する対応が懸念されている • 事業所の敷地内に新たに駐輪場を設置する必要がある
シェアサイクルの活用	<ul style="list-style-type: none"> • 自転車を利用することによる交通事故への懸念から、シェアサイクルの利用を検討していない事業所が多い
従業員の交通安全や健康に関する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> • 自転車に限らない交通安全に関する情報提供 • 業務用自動車で事故を起こした社員に向けた警視庁の交通安全講習受講 • 健康促進に関する啓発活動（食生活改善、階段使用等） • 健康組合からの健康促進に関するキャンペーンの告知を実施

3-3. 区内の商業施設における駐輪状況（商業施設へのヒアリング）

- 多くの方が自転車で商業施設に来店している一方、駐輪場ではなく店舗入口付近の路上等に放置されてしまうため、店舗にクレームが入り、その撤去・移動が課題

<調査結果>

整備状況	
台数・料金設定	<ul style="list-style-type: none"> • 店舗横等に設置しており、大規模店で約200～300台、中規模店で40台を設置 • いずれも無料にて駐輪可能
設備	<ul style="list-style-type: none"> • 店舗入り口付近に、駐輪場への案内表示を設置 • 駐輪場内に防犯カメラを設置
維持管理等の課題	<ul style="list-style-type: none"> • 歩道の通行者や来店客等の障害となるような駐輪自転車の移動は従業員で実施

利用状況	
来訪者の交通手段と駐輪場利用状況	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの方が自転車で来店 • 駐輪場位置が、店舗入り口から離れており、駐輪場ではなく、店舗入り口や店舗前の路上に駐輪している人が多い
放置自転車	<ul style="list-style-type: none"> • 店舗前の駐輪禁止エリアの歩道や店舗前に放置自転車が多い • 駐輪場内に来客ではない人の利用・不要自転車の放置がある
自転車利用者のトラブル	<ul style="list-style-type: none"> • 歩道上の駐輪自転車が転倒した際に、通行者（子供）に当たり、怪我をしたことがあった • 歩道上の駐輪自転車の盗難に関するクレームが店舗に入る

3-4. 障害者における自転車利用について

- ・ 視覚障害者、肢体障害者ともに、ルール違反や放置自転車による危険を感じている
- ・ タンDEM自転車、ハンドバイクの利用に対して、自転車の通行環境整備や歩道上の安全確保の延長にあると認識

<調査結果>

視覚障害者団体

自転車を感じ危険な場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふらつきながら自転車走行する高齢者や、傘さし運転の傘、自転車のハンドルとの接触 ・ 歩道がない路線では、白線を動線の目安として利用することが多く白線上への自転車の駐輪があると危険
自転車通行環境の整備に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車通行空間はしっかりとした分離が重要 ・ 視覚障がい者にとって、車道上の矢羽根や自転車専用通行帯が整備位置されているのかが分からないため、周知が必要
自転車の利活用について (タンDEM自転車について)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障がい者でも自転車を利用でき、快適で楽しいと感じるし、同様に感じる視覚障がい者の方は多いと思う。 ・ 通常の自転車が安全に通行できる環境整備等の総合的な対策が必要で、タンDEM自転車はその延長 ・ タンDEM自転車のパイロットを探すのが大変

肢体障害者団体

自転車を感じ危険な場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信号無視や一時停止無視をする自転車とのすれ違い時が危険 ・ 歩道上に放置されている自転車は、歩道通行時に邪魔、利用者のルール・マナーの向上をしっかりと図るべき ・ 自転車を定期的に点検する制度（法定点検等）があった方がよい
自転車通行環境の整備に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車道上でも自転車が安全に通行できる連続的な空間が整備されれば、車椅子利用者にとってもかなり快適になると考えられ、歩道の通行者、自転車の双方にとって良いことだと思う
自転車の利活用について (ハンドバイクについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子利用者にとって、日常の移動速度が一番のネック。ハンドバイク等により移動速度が向上すると、暮らしの便利さは劇的に変わると思う。ただし、安全に通行できる環境が必須となる ・ ハンドバイク等の自転車の安全性は、自転車通行空間整備に伴う歩道上の安全性確保の延長線にある

3-4. 障害者における自転車利用について

- 聴覚障害者は、自転車の音に気付かないことや、交差点の死角に対して危険を感じている
- 夜間のライト点灯や、死角のある箇所での一時停止など、一般の方の自転車利用における課題も存在

<調査結果>

聴覚障害者団体

自転車を利用する場面	<ul style="list-style-type: none"> • うしろから近づいてくる自転車の音に気が付かず、歩いているときにすぐ横をすり抜けられると危険 • 死角のある交差点で飛び出してくる自転車 • 急な坂道やカーブ等でスピードを出す自転車 • 歩道上の放置自転車
自転車通行環境の整備に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> • 自転車専用レーンの整備 • 死角の存在する箇所では自転車の一時停止が必要 • 無灯火の自転車は認知できないため、夜間のライト点灯が重要（光を感じることで危険が回避できる）
自転車の利活用について	<ul style="list-style-type: none"> • 子供の送迎や買い物などに自転車を利用することがある • スーパーマーケットの前等に駐車している自転車をきれいに整列してほしい • 歩道上の自転車と歩行者の通行区分を守っていない人が多い